

25 『彼は波の音がする』 成井豊＋真柴あずき

○ジャンル／ファンタジー

○ストーリー／舞台俳優の新宮弘樹は、新作映画のオーディションを受けて、見事に合格。しかし、その帰り道、交通事故で死ぬ。ところが、迎えに来た天使の話から、人違いだったことがわかる。弘樹は「生き返らせろ」と天使に迫るが、彼の体は既に火葬された後。天使は「もうすぐ死ぬ人がいるので、その体に入れ」と言う。それは、大企業を経営する。神信雄という男の体だった。弘樹は一目見てイヤになり、天使に別の体を要求する。が、そこへ、浦神を訪ねて、白浜若菜という女がやってきた……。

○出演者／男7＋女6＝計13
○上演時間／120分

キャスト

新宮弘樹	(俳優)
白浜若菜	(作家)
アルタイル	(天使)
浦神信雄	(ホテルチェーン社長)
浦神仁一	(信雄の甥・秘書)
浦神優花	(仁一の妻)
道成寺澄子	(執事)
箕島香月	(メイド)
串本欣也	(監督)
由良美智子	(プロデューサー)
和歌山文太	(助監督)

白浜邦子
岩代旭

(若菜の母・司書)
(編集者)

二〇一六年八月一日朝、映画のスタジオ。新宮弘樹が椅子に座っている。立ち上がって、発声練習を始める。そこへ、串本欣也・由良美智子・和歌山文太がやってくる。

1

由良

（新宮に）遅くなつてごめんなさいね。鴨川映画でプロデューサーをやっている、由良美智子です。（右手を差し出す）

新宮

（由良の右手を握って）新宮弘樹です。初めまして。

由良

新宮くんは、串本くんの友達なのよね？

串本

大学の同期です。同じサークルで芝居をやっていました。

由良

（新宮に）お芝居を始めたのは、大学から？

串本

中学高校は体操部だったんです。でも、子供の頃から映画が好きで、いつかは自分も出られるようになりたいと思つてて。

由良

（新宮に）だったら、映画のサークルに入ればよかつたのに。

串本

演技の勉強をするなら、やっぱり演劇だろうと思つたんです。（新宮に）そうだよな？

新宮

串本、悪いけど、しばらく黙つててくれないか？

串本

なんでだよ。

新宮

由良さんは俺に聞いてるんだ。俺に答えさせてください。

串本

俺はただ、おまえが緊張してるんじゃないかと思つて、少しでも雰囲気

新宮

を和

串本

らげようと。

緊張してるのは監督の方じゃないですか？

黙れ、文太。

串本くんがこの人を合格させたいって気持ちはよくわかった。だから、この人の言う通り、口を閉じてて。

わかりました。

（新宮に）それで、大学を卒業した後は？

サークルの先輩が作った劇団に入りました。それから十一年間、芝居一筋です。

映像は？

テレビはちよい役で何度か出たことがあります、映画は一度も。

つまり、演劇の世界では多少名前が知られているかもしれないけど、世間一般では全くの無名ってことね。

しかし、実力は確かです。

監督、口を閉じて。

（由良に）これだけは言わせてください。この映画の脚本を書いたのは僕です。監督するのも僕です。その僕が、この役は新宮弘樹が一番合ってるって言ってるんだ。信用してくれてもいいんじゃないですか？

そこに私情は入ってないって断言できる？

私情って？

三十過ぎても売れない友達を、自分の力で有名にしてやりたい。

由良さん、怒りますよ。

ごめん、今のはちよつと言いすぎた。でも、あなたが監督をやるのは今回が

和歌山

串本

由良

串本

由良

新宮

由良

新宮

由良

串本

和歌山

串本

由良

串本

由良

串本

由良

串本

由良

串本

由良

初めてじゃない？ プロデューサーとしては、あんまり危ない橋を渡りたくないのよ。

新宮

由良

小野田は重要な役ですからね。そう。もっと小さな役だったら、すぐにオーケイしたのに。

新宮

でも、こうしてオーディションやるってことは、僕にも望みはあるってことですよ？

由良

それはそう。あなたがダイヤモンドの原石だって可能性もないわけじゃないから。じゃ、台本を読んでもらいましょうか。八ページ、小野田の初登場のシーン。相手役のセリフは和歌山くんが読んで。

和歌山

新宮

了解しました。よろしくお願いします。

和歌山

こちらこそ。

新宮・和歌山が向かい合って立つ。手には台本。

和歌山

シーン十二、テスト。用意、スタート。

新宮

「宇部さん！ 宇部さん！」

和歌山

「どねえしたんじゃ、小野田」

新宮

「土方です。その旅籠に土方が来ちよるんです」

和歌山

「ほりやあ何かの間違いじゃろう。やつは今、五稜郭におるはずじゃ」

新宮

「じゃけど、わしは見たんじゃ。やつが連れと二人で入るところを」

和歌山

「沖田か？」

新宮 「違います。新選組の隊士で、名は確か、立川」

和歌山 「あの、滅法足の速い男か」

新宮 「宿の女中の話によると、土方は女子の客を訪ねてきたようです。新選組の副長ともあるう者が、戦の最中に逢い引きとは笑わせる」

和歌山 「おまえ、やつを斬るつもりか」

新宮 「もちろんです。あの時、やつが来なければ、わしらは沖田を斬ることができた。徳山さんの仇を討つことができたんです」

和歌山 「その気持ちはわしにもようわかる。じゃけど、おまえに土方が斬れるか」

新宮 「宇部さんは手伝うてくれんですか」

和歌山 「戦の最中に私闘はいかん。わしらの隊の者を集めて、その旅籠を取り囲むんじゃ」

新宮 「斬らずに生け捕りにするっちゅうんですか。わしは反対じゃ」

和歌山 「土方は手強い。あの時、おまえも足を斬られたじやろうが」

新宮 「あの時の痛みはよう覚えちよります。次に会うた時は必ず斬る。わしはそう誓うたんです」

和歌山 「待て、小野田」

新宮 「すぐに戻ります。土産に、土方の首を持ってきますけえ、楽しみにしちよってください」

新宮が走り出す。

串本 カット！ どうです、由良さん？
由良 (新宮に) あなた、山口県の出身？

新宮
由良
いいえ、奈良県です。
それにしても、ずいぶん長州弁が板に着いてるね。知り合いに、山口県出身の人がいるの？

新宮
由良
いません。でも、前に一度、長州弁の役をやったことがあるんで。

新宮
由良
時代劇は？ 殺陣はやったことある？

新宮
由良
うちの劇団の脚本家は新選組が好きなんで、全部で十回ぐらい。

新宮
由良
（由良に）こいつの殺陣は抜群ですよ。器械体操をやってたから、身が軽いんです。手先も器用なんで、ジャグリングもできます。新宮、由良さんに腕前をお見せしろ。

和歌山
串本
監督、小野田は大道芸人じゃありませんよ。

和歌山
串本
おまえに言われなくても、わかってるよ。（由良に）で、他に何か聞きたいことは？

由良
串本
ない。この人に小野田をやるだけの實力があることはよくわかった。

由良
串本
じゃ、オーディションは合格ってことでいいですね？

新宮
由良
（新宮に）演劇と映画は全然違うからね。それだけは肝に銘じておいて。頑張ります。よろしくお願いします。（頭を下げる）

由良が去る。

串本
新宮
よかったな、新宮！

串本
新宮
ありがとう、串本！（串本に抱きついて、頬にキスする）

串本
新宮
やめろ！ 文太が誤解する！（新宮を引き剥がす）

和歌山
串本
安心してください。同性愛に対して偏見は持ってません。

串本

だから、俺たちはそういう関係じゃないんだって。今のはこいつのクセなんだ。興奮すると、近くの人間に抱きついて、キスをする。

新宮

俺はただ、感謝の気持ちを伝えたかっただけで。

串本

合格したのはおまえの実力だ。

新宮

それだけじゃない。おまえと一緒に稽古してくれたからだ。

和歌山

え？ どこかで予習してきたんですか？

新宮

昨夜、うちの劇団の稽古場で。特技をアピールした方がいいって、ジャグリングもやらされた。(ボールを出して、ジャグリングする)

串本

凄。本当にできるんですね。

和歌山

前にうちの劇団でサーカスの芝居をやったことがあって。劇団にいと、い

串本

ろんなことをやらされるんですよ。

新宮

だからって、みんながみんな、できるようになるわけじゃない。(和歌山に)

和歌山

こいつは本当に凄い役者なんだ。この映画が公開されれば、日本中に知れ渡るだろう。この顔と、新宮弘樹って名前が。

串本

(新宮に)期待してますよ。そうそう、申し遅れましたが、僕は助監督の和歌山文太です。

新宮

(新宮に)こいつは俺の母親の妹の息子、つまり従弟なんだ。わからないことがあったら、何でもこいつに聞いてくれ。

串本

(和歌山に)よろしくお願いします。(頭を下げる)

こちらは八月二十一日です。(紙を差し出して)これ、撮影のスケジュールです。克蘭クインは八月二十一日です。

(受け取って)あと二十日か。何だか待ち遠しいな。

俺もだよ。よし、合格を祝して、ビールでも飲みに行くか。

新宮

待て待て、まだ昼飯前だぞ。それに、俺はこれからバイトがあるんだ。急いで行かないと。

串本

ここへは自転車で来たのか？

新宮

もちろん。舞台役者は自転車が基本だ。

串本

昼頃から雨が降るらしい。気をつけて帰れよ。

新宮

ああ。

串本が去る。新宮が走り出す。自転車に乗って、道路に出る。ペダルを漕ぎながら、セリフの練習をする。急坂を上り、下る。カーブを曲がる。後ろから来たバスを避ける。交差点に進入する。反対から来たトラックが急に右に曲がる。新宮が慌ててブレーキをかける。衝突音。

バス停。新宮がベンチに座っている。立ち上がって、発声練習を始める。そこへ、アル
タイトルとベガがやってくる。アルタイトルは背中に羽をつけている。

ベガ
新宮

何をしてるんですか？

見ればわかるでしょう？ 発声練習ですよ。バスの中で説明しましたよね？

僕は役者で、今度、映画に出ることになったんです。二十日後に撮影が始ま
るんです。

でも、あなたはもう出られませんよ。

ベガ
新宮

出ますよ。

無理ですよ。だって、もう死んでるんだから。

ベガ
新宮

だから、それは何かの間違いなんですよ。確かに僕は事故に遭った。でも、
トラックにぶつかっただけのは自転車だけで、僕はかすり傷一つ負ってない。無

傷の人間が死ぬわけじゃないんです。（発声練習を始める）

ベガ

（アルタイトルに）ずっとこの調子なんです。

アル
新宮

（新宮に）もしもし、一つアドバイスしてもいいですか？

アル
新宮

アドバイス？

あなたはサ行とタ行の発音がよくない。それは舌の筋肉が弱いからだ。大き
な声を出すことばかり考えて、滑舌の練習が足りないんじゃないですか？

新宮
アルタイル

確かに、滑舌は早口言葉を幾つか言うぐらいしか。甘い。甘すぎる。

新宮
アルタイル

すみません。明日から、数を倍にします。（棒を差し出して）これを使いなさい。

新宮
アルタイル

何ですか、これは？

新宮
アルタイル

滑舌棒です。これを口に銜えて、早口言葉を練習すると、舌の筋肉がみるみるうちに鍛えられます。（棒を口に銜えて早口言葉を言つて）私が長年愛用してきたものですが、あなたに差し上げましょう。（滑舌棒を差し出す）

新宮
アルタイル

でも、これ、歯形がついてますけど。人の好意は素直に受け取るものです。

新宮
アルタイル

（受け取つて）ありがとうございます。ところで、あなたは？私の名前はアルタイル。見ての通りの天使です。この監視所で副所長をつとめています。

新宮
アルタイル

監視所？

新宮
アルタイル

地上の様子を監視する施設です。ここでは常時、一万人の天使が業務に当たっています。

ベガ

（新宮に）副所長は毎朝、朝礼の時、一万人の天使に向かって、話をしてるんです。マイクなしで。

新宮
アルタイル

（アルタイルに）だから、発声に詳しいんですか？私がこの仕事に就いたのは一六一年、大坂夏の陣で豊臣家が滅亡した年です。それから、毎朝発声練習をしてきました。人間のあなたとは鍛え方が違

新宮

うんです。お見逸れしました。

アルマイル

あなたの話はここにいるベガから聞きました。「僕が死んだのは何かの間違だ」と言つて、バスを途中下車したそうですね？

新宮

天国まで行つたら、もう戻れないと思つたんで。

ベガ

天国行きを拒否したら、地獄へ行くしかないんですよ。

新宮

それは死んだらの話でしょう。僕は生き返る。地上へ戻ります。

アルマイル

自分の死を認めたくないという気持ちは、よくわかります。が、すべては神様がお決めになつたこと。私たちはそれを忠実に実行しているだけです。

新宮

でも、誰にだつて、間違いはある。

アルマイル

私たちに間違いはありません。滅多に。

新宮

滅多に？ ということは、たまにはあるつてことですか？

アルマイル

確率的にはほとんどゼロに近い。私が副所長に就任してからは、一度もありません。

新宮

でも、それ以前にはあつたつてことですよ？

アルマイル

これだけ言つてもわからないなら、仕方ない。あなたの運命を調べてみましょう。ベガ。

ベガ

わかりました。(タブレットを出して新宮に) あなたのお名前は田辺吾郎さんですよ？

新宮

違いますよ。新宮弘樹です。

ベガ

またまた。嘘をついても無駄ですよ。(タブレットを操作して) ほら、ここを見てください。田辺吾郎、二〇一六年八月一日午前十一時十二分、東京都調布市国領町の交差点で、交通事故により死亡。ほらね？

新宮
アルマイル

(タブレットを見て) でも、この顔、僕と全然似てないですよ？
まさか。(ベガに) 試しに、新宮弘樹という人を調べてみなさい。

ベガ

(タブレットを操作して)新宮弘樹。出ました。

新宮

(タブレットを見て)そう、これが僕です。ほら、そっくりでしょう？

アルマイル

(ベガに)新宮弘樹さんが亡くなるのはいつです。

ベガ

(タブレットを操作して)信じられない。まだ五十年以上先です。

新宮

つまり、あなたは僕と田辺吾郎って人を間違えたんですね？

ベガ

でもでも、あなたはトラックに衝突して、十メートル以上飛んで、アスファ

アルマイル

ルトの地面に落ちたんです。

ベガ

心臓の停止は確認しましたか？

アルマイル

そんなことしなくても、死んだのは明らかでした。

ベガ

つまりしなかったんですね？

だってだって、自転車とトラックが衝突したら、普通、自転車のの方が死ぬと思いますよね？

アルマイルが右手を挙げる。雷がベガに落ちる。ベガが倒れる。

アルマイル

新宮弘樹さんでしたね？ 四〇一年間、一度も起きなかったことが起きてしま

ベガ

まったようです。あなたには何とお詫びしていいか、わかりません。本当に

新宮

申し訳ありませんでした。(頭を下げて)ベガ。

ベガ

(立ち上がって新宮に)申し訳ありませんでした。(頭を下げる)

アルマイル

僕は間違いだと認めてもらえれば、それでいいんです。今すぐ、生き返らせ

アルマイル

てください。

もちろんですとも。(ベガに)でも、その前に、田辺吾郎さんは今、どこに

いますか？

ベガ

(タブレットを操作して)交差点の近くにある、慈恵医科大学第三病院です。トラックを運転中に、自転車と接触して、道路脇の街路樹に衝突、全身数カ所を骨折して、意識不明の重体です。

アルマイル

今すぐ、迎えに行きなさい。

ベガ

わかりました。あの、一級に昇格するって話は？

アルマイル

(右手を挙げる)

ベガ

行ってきます。

ベガが去る。

アルマイル

ベガは二級天使なんです。今回の仕事が完了したら、一級に昇格して、羽が与えられるはずだったんですが。

新宮

僕は昇格に反対です。

アルマイル

私も反対です。失敗した罰として、一〇〇年延期します。

新宮

じゃ、地上に戻りましたよ。ここで待っていれば、地上行きのバスが来るんですか？

アルマイル

ええ。でも、その前に、あなたに残念なお知らせをしなければなりません。

新宮

残念なお知らせ？　なんかあんまり聞きたくないな。

アルマイル

私もあまり言いたくないんですが、こと地上とでは、時間の流れる速度が違うんです。ここが時速一キロだとすると、地上は三六五キロ。

新宮

それはつまり、ここで一日経つ間に、地上では一年過ぎることですか？

アルマイル

その通りです。あなたが亡くなったのは八月一日でしたよね？　しかし、あなた

新宮

あなたがバスに乗っている間に、地上では一週間過ぎてしまった。

アルマイル

あなたがバスに乗っている間に、地上では一週間過ぎてしまった。

新宮
アルマイル

てことは、克蘭クインまで、あと十三日しかないわけだ。問題はそこではないんです。亡くなってから一週間過ぎたということは、あなたのお葬式はもう終わっています。

新宮
アルマイル

なるほどね。そんな人間が生き返ったら、みんなビククリするだろうなあ。違うんです、新宮さん。お葬式が終わったということ、あなたの体はもう存在しないんです。

新宮

僕の体が？

アルマイル

火葬場で焼かれて、灰になったんです。

新宮

灰に？

アルマイル

もっと早く気づいていれば、手の打ちようがあったんですが。本当に残念です。

新宮

残念で済む問題じゃない！ それってつまり、僕は生き返れないってことですか？ 僕が死ぬのはまだ五十年以上先って言いましたよね？ あれは嘘ですか？

アルマイル

神様がお決めになったことを、勝手に変えるわけには行きません。あなたは必ず生き返らせてみせます。

新宮

でも、体もないのに、どうやって。

アルマイル

別の体に入るんです。これから死ぬ人の体に。

新宮

そんなことをして、いいんですか？

アルマイル

よくはありませんが、これ以外にあなたが生き返る方法はない。了承していただけますか？

新宮

他に方法がないなら仕方ないけど、できるだけ、元の体に近いものにしてほしいです。性別は男で、年は三十三で、身長は一八〇センチ。

アルマイル 一八〇？ もっと高くても、いいですよ。

新宮 本当ですか？

アルマイル これだけご迷惑をおかけしたんです。あなたのお望みの体を探します。

新宮 ありがとうございます。でも、身長はやっぱり、これぐらいでいいです。

アルマイル なぜですか？

新宮 僕はこの体で三十三年生きてきた。いきなり大きくなったら、自分の思い通りに動けないかもしれない。そうだったら、撮影の時に困る。

アルマイル あくまでも、映画に出るつもりなんですかね？

新宮 もちろん。だって、僕はオーディションに合格したんですから。

バスのクラクション。

アルマイル バスが来ました。地上行きのバスです。乗りましょう。

新宮 アルさんも一緒に行ってくれるんですか？

アルマイル アルさん？

新宮 アルマイルさんだと、長くて言いにくいから。

アルマイル それじゃ、あなたのことは新さんと呼びましょう。新さん、あなたを新しい体にご案内します。

バスが停車する音。

① 八月八日夕、浦神信雄の家。浦神仁一の部屋。仁一と浦神優花が椅子に座っている。そこへ、道成寺澄子かやってくる。

道成寺

失礼いたします。

仁一

どうした？

道成寺

こちらに旦那様がいらっしやるかと思つたのですが。

仁一

来てない。親父が僕の部屋に来るわけないだろう。

道成寺

私もそうは思いましたが、ご自分のお部屋にも、書斎にもいらっしやらなかつたので。

仁一

僕は知らない。親父とは、家に帰ってきてから、一度も顔を合わせてないんだ。

優花

わかつた。(道成寺に) きつと、二階のテラスでお昼寝でもなさってるんじゃない？

仁一

だって、今日は釧路まで行ってきたんでしよう？ お義父様ももういいお年なもの。お疲れになつて、当然よ。(仁一に) ねえ？

道成寺

そうだな。昼間も腰が痛いつて言つてたし。しかし、六時にお客様がいらっしやることは、旦那様もご存知のはずなんだから、

優花

テラスを見てきなさいつて。

道成寺

承知いたしました。

道成寺が去る。

②地下室。床に浦神信雄が倒れている。そこへ、新宮・アルタイルがやってくる。

新宮

この人ですか？

アルタイル

そうです。(スマートフォンを見て) この家の主で、名前は浦神信雄。プリ

新宮

ンセスホテルというホテルチェーンの社長です。首の骨が折れてますね。地下室へ下りようとして、階段を踏み外したんです

アルタイル

よう。かわいそうに。(浦神の顔を見て) あれ？
どうかしましたか？

新宮

この人、年は幾つですか？

アルタイル

(スマートフォンを見て) 浦神信雄、一九五六年七月四日生まれ。というこ

新宮

とは、六十歳ですね。
僕は三十三にしてくれって言いませんでしたっけ？

アルタイル

しかし、身長と体重はあなたとほぼ同じです。
どうしてそっちを優先するんですか。こんなお年寄りの体に入ったら、また

新宮

すぐに死ぬじゃないですか。
そんなことはありません。あなたの寿命はまだ五十年以上残っていますから。

アルタイル

60+50=110
うまく行けば、長寿日本一になれますよ。

新宮

僕は長生きしたいんじゃない。映画に出たいんだ。僕がやるのは、若い武士の役なんです。こんな体で撮影に行ったら、すぐにクビになる。

アルマイル
しかし、あなたのご希望に近い人で、今日亡くなるのは、この人だけなんですよ。

新宮
だったら、待ちます。三十三じゃなくても、構わない。三十二でも三十四でもいいから、別の体を探してください。

アルマイル
わかりましたよ。

新宮
あっ！ アルさん、羽は？

アルマイル
今頃気づいたんですか？ バスに乗る時に外したんですよ。

新宮
あれって、取り外しができるんですか？

アルマイル
当たり前でしょう。羽をつけたままで、寝られると思いますか？

新宮
背中が痛くて、一睡もできませんよ。
そう言えば、そうだ。じゃ、行きましようか。

③ 新宮・アルマイルが去る。
道成寺・白浜若菜・岩代旭がやってくる。

道成寺
お約束は六時のはずでしたが。
岩代
すみません。浦神さんをお待たせするわけには行かないと思って、少し早めに出たら、少し早めに着いちゃいました。

道成寺
昔から、よそのお宅を訪問する際は、約束の時間に三分遅れて行けと申します。そのお宅の準備が間に合わない場合を考えて。

岩代
それはつまり、出直してこいと？
道成寺
ご心配なく。私共の準備は完璧に整っています。こちらへどうぞ。

そこへ、新宮・アルマイルがやってくる。道成寺・若菜・岩代が去る。

アルマイル （新宮に）なぜ立ち止まるんです。

新宮 今の人、知ってるんですよ。ほら、あの人。僕がよく行くパン屋の店員さんです。

アルマイル お友達ですか？

新宮 いや、単に店員と客の関係です。でも、名字は知ってるんですよ。胸につけてる名札に、「白浜」って。

アルマイル なかなかキレイな人でしたね。

新宮 そうですよ。すみませんけど、五分だけ寄り道させてください。（若菜の後を追う）

アルマイル ちよつと。どこへ行くんです。

新宮・アルマイルが去る。

④ 応接室。若菜・岩代・道成寺がやってくる。

道成寺 旦那様をお呼びして参ります。しばらくこちらでお待ちください。

道成寺が去る。

岩代 噂には聞いていたけど、でかい屋敷だな。さすがに、ホテル業界の帝王って

呼ばれるだけのことはある。

若菜 でも、この家は、浦神さんのお父さんが建てたんでしょう？

岩代

だと思う。でも、プリンセスホテルを日本一にしたのは、浦神さんだ。経営の才能はお父さんより上だったんだよ。

そこへ、新宮・アルマイルがやってくる。

若菜 岩代

それはたまたま、跡を継いだ直後に、バブルが来たってだけの話じゃない。ずいぶんきつい言い方をするなあ。おまえがあまり乗り気じゃないことはわかっているけど、浦神さんの前でそういう態度は取るなよ。

若菜 岩代

誤解しないでよ。私はやる気満々なんだから。だつたら、批判めいたことは一切口にするな。今日のこの面接で、おまえが採用されるかどうかが決まるんだから。

若菜 岩代

私の前にゴーストになった人たちは、どうしてクビを切られたの？ 二人とも、理由は言われなかったらしい。突然、電話がかかってきて、別の作家に替えろって。

若菜 岩代

何それ？ あまりに傲慢すぎない？ わかってないな。これからおまえが書くのは、浦神さんの本なんだ。出版すれば、十萬部は固い。うちの会社にとつては、干からびた大地に降り注ぐ、恵みの雨だ。一から十まで、浦神さんの言う通りにするしかない。

若菜 岩代

だから、私にもイエスマンになれってわけ？ 仕方ないだろう。作者はあくまでも浦神さんなんだから。そのかわり、おまえは作家として間違いなく成長する。ゴースト出身の作家って、意外と多いんだぞ。

若菜

知ってる。だから、やろうと思ったんじゃない。

優花　　ます。こちらは僕の妻の優花です。
仁一　　（若菜・岩代に）初めまして。
箕島　　箕島さん、僕らにもお茶を。
　　　　はい、ただいま。

⑤ 箕島が去る。
地下室。浦神が床に倒れている。そこへ、新宮・アルタイルがやってくる。

アルタイル　　さあ、善は急げです。今すぐ、中に入ってください。

新宮　　僕が入ったら、首の骨は？　もちろん、元に戻してくれますよね？

アルタイル　　天使の力を見くびってはいけません。完璧に治してみせます。

新宮　　よかったです。あ、入る前に言っておきますけど、この体を使うのは八月二十日

アルタイル　　までですからね。

アルタイル　　何ですって？

新宮　　だって、八月二十一日から撮影が始まるんだから。

アルタイル　　新さん、ちよつと待ってください。新さん。

新宮が倒れる。浦神が立ち上がる。

浦神　　あんたは？

アルタイル　　私の名前はアルタイル。見ての通り、天使です。アルさんと呼んでください。

浦神　　天使が来たということは、俺は死んだんだな？

アルタイル　　心からお悔やみ申し上げます。しかし、力を落とさないでください。あなた

はこれから天国へ行くのです。

新宮が立ち上がる。

新宮　あれ？　何だか体が動かしづらいな。やっぱり、年のせいかな。

浦神　（アルタイルに）こいつは誰だ。

アルタイル　話せば長くなるんですが、要するに、あなたの体は今日からこの人が使うことになったんです。

新宮　顔もうまく動かない。（浦神に）すみません。鏡はどこでしょう？

浦神　（指差して）そっちの奥だ。

新宮　ありがとうございます。

新宮が去る。叫び声。新宮が走ってくる。

新宮　アルさん！　アルさん！　アルさん！　アルさん！

アルタイル　何ですか、新さん。

新宮　鏡を見たら、僕の顔が。僕はこの人の体に入ったんじゃないんですか？

アルタイル　入りましたよ、間違いなく。

浦神　しかし、俺の体はここにあるぞ。

アルタイル　ありません。お二人ともよく聞いてください。あなた方は死者です。魂だけ

の存在です。ですから、あなた方の目には、体ではなく、魂が見える。

浦神　つまり、この手は実際には存在しないんだな？

アルタイル　その通り。生者には浦さんが見えない。私も見えない。しかし、新さんは浦

浦神
新宮

さんの体の中に入っているの、周りの人には浦さんに見える。
浦さんとは俺のことか？

なるほどね。確かに、見た目は変わらないけど、別の体って感じがします。
ちよつと走っただけで、息が切れた。大分耄碌してるみたいだ。

浦神

文句を言うなら、返せ。

新宮

そう言わずに、二週間だけ貸してください。大事に使いますから。

アルマイル

新さん、勝手なことを言わないでください。

新宮

まあまあ、アルさんはその間に、別の体を探せばいいじゃないですか。二週

アルマイル

間もあれば、完璧なのが見つけれられるでしょう？

新宮

しかし。
話はこれで決まりだ。ほらほら、早くその人を天国に連れていかないと。

アルマイル

わかりましたよ。(浦神に)ご自分の体を他人に使われるのはさぞかしお伊

浦神

やかと思いませんが。

いや、別に構わない。体から抜け出したせいで、腰の痛みがすっかり消えた。
まるで若い頃に戻ったみたいだ。新さんだったな？ 後のことは君に任せた。

そこへ、道成寺がやってくる。

道成寺

(新宮に) 旦那様、こんな所にいらっしやっただんですか？

アルマイル

(新宮に) あなたに話しかけてるんですよ。

新宮

(道成寺に) はい、えーと。

浦神

(新宮に) 執事の道成寺だ。

新宮

(道成寺に) 道成寺さん、僕に何か用ですか？

道成寺
お客様がお待ちです。すぐに応接室にいらっしゃってください。
新宮 はい、ただいま。

新宮・道成寺が去る。

アルマイル (浦神に) 亡くなった直後に、いろいろお騒がせしてすみません。
浦神 俺は死後の世界なんて信じてなかったが、意外と楽しいじゃないか。次は天国か？ 若い姉ちゃんはいらんだらうな？

アルマイル・浦神が去る。

⑥ 応接室。若菜・岩代・仁一・優花が椅子に座っている。そこへ、箕島がやってくる。手はコップを載せたお盆。

箕島 お茶をお持ちしました。

仁一 ありがとうございます。遅いな。いつまで待たせるつもりだ。

岩代 僕らのことなら、気にしないでください。早く来すぎたのがいけないんです。

仁一 しかし、もう十分は経ってる。ちよつと見てきます。

優花 仁一さん、待って。あなたは会社ではお義父様の秘書かもしれないけど、この家では息子なのよ。お義父様のお世話は道成寺さんに任せなさいよ。

仁一 そうだな。彼女に任せておけば、安心だ。

そこへ、新宮・道成寺がやってくる。

道成寺

優花

道成寺

優花

仁一

お待たせいたしました。

(新宮を見て叫ぶ)

優花様、どうなさいました？

何でもない。ちよつとめまいがして。(氣を失う)

優花！(優花の体を支えて)そう言えば、昨夜から熱があるって言ってたんだ。(新宮に)しばらく、部屋で休ませます。

仁一が優花を抱き抱えて、去る。道成寺・箕島も去る。

岩代

若菜

岩代

新宮

岩代

若菜

岩代

(新宮に)ついさっきまで、普通に話していらつしやったんですが。

まるで、ホラー映画のワンシーンみたいだったね。

確かに。浦神さんが幽霊にでも見えたのかな？

それはどういう意味ですか？

深い意味はありません。今のは軽い冗談です。お気に障ったら、お詫びしま

す。

岩代君、ご挨拶。

そうだった。(新宮に)ご挨拶が遅れて、申し訳ありません。(名刺を差し

出して)私、緊張社の岩代と申します。こちらはフリーライターの白浜さん

です。

(新宮に名刺を差し出して)白浜若菜です。初めまして。

(受け取って)そうか。あなたは若菜って名前だったんですね。

ええ、そうですけど。

(新宮に)先日、部長の下里から、浦神さんの自伝を代筆する作家を探して

岩代

若菜

新宮

若菜

岩代

新宮
若菜
新宮
若菜

いると聞きまして、私が白浜さんを推薦したんです。白浜さんは今はまだ無名ですが、作家としての実力は確かです。必ず浦神さんのご期待に沿えると思います。あ、これは白浜さんの履歴書と、白浜さんが書いた文章のコピーです。（書類を差し出す）
（受け取って、若菜に）わかりました。あなたに決めましょう。
え？ でも、まだ何も読んでないのに。
あなたはプロの作家になりたいんでしょう？ だったら、この仕事をやるべきだ。頑張ってください。
はい、頑張ります。

新宮・若菜・岩代が去る。

① 八月八日夜、浦神信雄の屋敷、浦神信雄の部屋。新宮・アルタイルがやってくる。

アルタイル

で、彼女をゴーストライターとして雇うことにしたわけですか。

新宮

明日の夜から一週間、インタビュアーを受けることになりました。その結果を元にして、彼女が原稿を書くんです。

アルタイル

あなたがインタビュアーに答えられるんですか？

新宮

そこなんですよね、問題は。僕は浦さんのことを何も知らない。知ってるのは、名前と年だけだ。

アルタイル

新さん、悪いことは言いません。その体を使うのはやめなさい。

新宮

どうしてですか？ この体を使って言ったのはアルさんでしょう？

アルタイル

それはそうですが、あなたは気に入らなかつた。だったら、すぐに出るべきです。

新宮

でも、代わりの体は？

アルタイル

それはまだ探してませんが。

新宮

だったら、もうしばらく使わせてもらいます。インタビュアーについては、心配しないでください。明日の夜までに、準備しますから。

アルタイル

準備って？

新宮

勉強するんですよ。浦さんの人生を。

そこへ、仁一・優花がやってくる。

仁一

お父さん、さっきは優花が大声を出して、すみませんでした。

新宮

いきなり叫んで、気を失ったから、ビックリしましたよ。(優花に) もう起きてても、平気なんですか？

優花

ええ、まあ。そういうお義父様こそ、お体の具合は？

新宮

僕ですか？ 僕は見ての通り、健康そのものです。そんなことより、仁一さんにお聞きしたいことがあるんです。僕は日記をつけてましたか？

仁一

なぜそれを僕に聞くんですか？

新宮

いや、年を取ったせいとか、最近、物忘れがひどくなっちゃって。息子さんなら、知ってるんじゃないかと思って

アル
マイル

息子さんは変ですよ。

新宮

いや、仁一さんなら、知ってるじゃないかと。

仁一

お父さんは文章を書くのが嫌いでしょう？ 手紙もメールもスピーチの原稿も、みんな僕に書かせてるじゃないですか。

新宮

そうでした、そうでした。じゃ、他に何か、記録みたいなものはありませんかね？ 僕の人生がわかるような。

仁一

アルバムなら、書斎にありますけど。

優花

新聞や雑誌の記事は？ お義父様の記事は全部保管してあるでしょう。

新宮

それだ。今すぐ読みたい。どこにありますか？

優花

道成寺さんに頼んで、ここに運んでもらいますよ。でも、その前に教えてく

ださい。どうして突然、自分の過去を振り返ろうと思ったんですか？

新宮

明日から、白浜さんのインタビューが始まるんで、その準備です。

優花

本当にそれだけですか？

新宮

なぜ疑うんですか？

仁一

優花、僕らはそろそろ寝よう。(新宮に)道成寺さんには僕から頼んでおきますから。

仁一・優花が去る。

アルマイル

優花さんて人はちよつと様子が変ですな。

新宮

ええ。理由はよくわからないけど、僕を怖がってるみたいなんです。

アルマイル

あなたじゃなくて、浦さんを怖がってるんですよ。生前、彼女に劣情を催して、襲いかかったんじゃないですか？

新宮

その可能性はあるな。浦さんには奥さんがいないみたいだし。

そこへ、道成寺・箕島がやってくる。手にはアルバム・雑誌・ファイル。

道成寺

旦那様、アルバムをお持ちしました。

新宮

ありがとうございます。さすがに六十年も生きてると、量が凄いな。(アルバムを取って)道成寺さん、僕の妻はいつ亡くなったんですか？

道成寺

え？

新宮

あれ？ 亡くなったんじゃないかと、離婚したんですか？

アルマイル

新さん、もう少し上手な聞き方はできないんですか？

道成寺

旦那様、お気を確かに。箕島さん、お医者様をお呼びして。

新宮

待ってください、箕島さん。僕は大丈夫です。ただ、年を取ったせいか、最近、物忘れがひどくなっちゃって、妻のことがどうしても思い出せないんです。

道成寺

当たり前です。旦那様はずっと独身ですから。

新宮

え？　じゃ、仁一さんは？

道成寺

それもお忘れになったんですか？　仁一様はご養子です。旦那様の遠いご親戚で、幼い頃にご両親を亡くされて、お一人になられたので、旦那様がお引き取りになったんです。

なるほどね。道理で顔が似てないわけだ。

新宮

(アルバムを見て)　おや、この写真は？

新宮

(アルバムを見て)　え？　どの写真ですか？

アルマイル

(アルバムを指差して)　これですよ、これ。若い頃の浦さんが、美しい女性と二人で写ってる。

新宮

(アルバムを見て)　本当だ。この人、浦さんの恋人ですかね？

アルマイル

(アルバムを見て)　そうですよ、きっと。だって、ここ、江ノ島ですよ。

新宮

(アルバムを見て)　ということは、デート？　日付は一九八三年、僕が生まれた年だ。

アルマイル

新さん、見てください。(道成寺・箕島を指差して)　二人が固まっています。

新宮

(道成寺・箕島に)　いや、年を取ったせいとか、最近、独り言が増えちゃって。

箕島

(道成寺に)　やっぱり、お医者様をお呼びした方が。

新宮

その必要はありません。二人とも、仕事に戻ってください。

新宮

道成寺・箕島が去る。

道成寺・箕島が去る。

アルマイル 他に人がいる時は、私に話しかけない方がいいですよ。頭がおかしくなった
と思われます。

新宮 そうですね。気をつけます。(雑誌を取って) ん? ここにインタビューが
載ってる。「ホテル業界の帝王が半生を振り返る」。

アルマイル (雑誌の表紙を見て) でも、これ、三年も前のものですよ。

新宮 とりあえず、読んでみます。アルさんは最近のインタビューがないか、探し
てみてください。

アルマイル 私に手伝えって言うんですか? なんて天使使いの荒い人だろう。

浦神信雄の部屋の前。道成寺・箕島が立っている。

箕島 今のを聞きましたか? 旦那様ったら、ご自分のことを「浦さん」って。

道成寺 箕島さん、動揺してはいけません。大企業の経営者が多忙のあまり、一時的
に錯乱状態に陥るのは、けっして珍しいことではないんです。

箕島 そうなんですか? 私はかなりヤバイと思いますけど。

道成寺 いいえ、きつとすぐに正氣に戻られます。私たちは温かく見守りましょう。

道成寺・箕島が去る。

② 八月九日夜、浦神信雄の屋敷、応接室。若菜・岩代が椅子に座っている。そこへ、新宮
・アルマイルがやってくる。

新宮 こんばんは。あれ? 岩代さん、今日も一緒に来たんですか?

岩代

インタビュ어가軌道に乗るまでは、立ち会わせていただこうかと。余計な口出しは絶対にしません。

新宮

いやいや、僕もこういうことには不慣れなんて、遠慮しないで、どんどんダメ出ししてください。あ、もちろん、白浜さんも。

若菜

(ICレコーダーを出して)失礼ですが、録音させていただいてもよろしいですか？

新宮

どうぞどうぞ。

若菜

それでは始めさせていただきます。浦神さんは一九五六年の七月四日に、東京都中央区の聖路加病院でお生まれになりましたよね？

新宮

そうです。体重は二八三〇グラム。予定日の一カ月前で、かなりの難産だったそうです。

若菜

一番古い記憶は？

新宮

一番古い記憶ですか？　そうですね。(アルタイルを見る)

アル
タイトル

どうせ誰も知らないんだから、自分の記憶を答えればいいでしょう。

新宮

(若菜に)保育園の運動会です。玉入れ競争で、一つも玉が入らなくて、大泣きしたのを覚えています。

若菜

保育園？　こちらの資料には、千代田区の三つ葉幼稚園のご出身と書いてあります。

新宮

間違えました。幼稚園でした。何しろ六〇年も前のことなので。

若菜

幼稚園入園は一九六〇年、つまり、五十六年前ですね。

そこへ、

箕島がやってくる。手にはカップを載せたお盆。

箕島

新宮

若菜

遅くなつて、申し訳ありません。
いや、ちょうど喉が渴いたところだったんだ。ありがとう。
それじゃ、次の質問です。浦神さんの最初のご友人は、幼稚園の同級生ですか？

新宮

アルタイル

新宮

若菜

最初のご友人ですか？ そうですね。（アルタイルを見る）
山田君にしておきましょう。クラスに一人はいたはずです。
（若菜に）山田君です。下の名前は覚えてませんが。
（資料を見て）今、衆議院議員をなさっている、山田陸平さんですね？ 山田さんとの最初の出会いは？

アルタイル

新宮

若菜

（資料を覗き込んで）まずいですよ。この人、同級生のリストを持ってます。
（若菜に）最初の出会いは、もちろん、入園式です。
先に話しかけたのは？
ダメです。思い出せません。

新宮

若菜

じゃ、山田さんのお付き合い中で、一番印象に残っていることは？
それも思い出せない。すみません、山田君のことはこれくらいにして、次の話題に移りませんか？

若菜

でも、「山田陸平君と友達だった」だけじゃ、おもしろみがありません。何か一つでも、エピソードを加えないと。

岩代

箕島

新宮

浦神さんは覚えてないと仰ってるんだ。その話題はおしまいにして、失礼しました。
ご苦労さま。

箕島が去る。

若菜

新宮

若菜

アルマイル

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

(新宮に)じゃ、最初のクラスの担任の、稲原先生の思い出は？

すみません。僕にはわかりません。

そんなはずはないでしょう？(雑誌を出して)これ、五年前の週刊緊張です。

浦神さんは稲原先生の思い出をいろいろお話しになっていきます。

(新宮に)その雑誌は読まなかったんですか？

(若菜に)そんなに稲原先生のことを書きたいなら、その雑誌に書いてある

ことを写せばいいでしょう。

私は浦神さんからお聞きしたいんです。できれば、ここに書いてないことを。

無理ですよ、そんなこと。

どうしてですか？ 私は、浦神さんが今まで誰にも話してないことを書きた

い。本当の浦神さんが書きたいんです。

白浜さん、落ち着いて。お茶でも飲んで、ちょっと休憩しましょう。

岩代さん、ちよつと席を外してもらえますか？

浦神さん、お腹立ちはよくわかりますが、今日はまだ初日です。白浜さんに

は私から注意しておきますので。

僕は別に怒ってません。ですから、席を。

わかりました。

岩代が去る。

私、何か失礼なことを言ったのでしょうか？

いいえ、何も。あなたはいい本を作るために一生懸命頑張ってる。文句は何

もありません。

じゃ、どうして岩代さんを外へ？

あなたにどうしてもお話ししたいことがあって。

まさか、バラすつもりじゃないでしょうね？

ええ、そのつもりです。やっぱり、僕には他人の真似なんて、無理なんだ。

浦神さん、誰に向かって、話してるんですか？

白浜さん、僕は浦神さんじゃないんです。

新さん、やめた方がいいですよ。

止めても無駄ですよ。

浦神さん？

(新宮に) 話したければ話せばいい。でも、信じてはもらえせんよ。

(若菜に) 僕の本当の名前は新宮弘樹。今から八日前に、天使の手違いで死

んだんです。

言っちゃった。

(新宮に) 今、なんて言いました？ 新宮？ 天使？ 死んだ？

そうです。だから、僕は浦神さんのことは何も知らない。あなたの質問には

答えられないんです。

私のこと、からかってるんですか？

違います。

だったら、どうしてそんなバカげた話をするんですか？ 私がイヤなら、は

つきりそう言えればいいでしょう？

そこへ、岩代がやってくる。

岩代
若菜
新宮
若菜
岩代

(若菜に) どうしたんだ。大きな声を出して。
私、帰ります。

白浜さん、待ってください。

お役に立てなくて、申し訳ありませんでした。

白浜さん！(新宮に) すみません。後で連絡します。

若菜・岩代が去る。

① 八月九日夜、浦神信雄の家、応接室。新宮・アルタイルが椅子に座っている。

アルタイル

言ったでしょう？ 信じてはもらえないって。

新宮

確かに、いきなり本当のことを話したのはまずかったかもしれませぬ。でも、

アルタイル

彼女は「バカげた話」って決めつけた。これはさすがにひどくないですか？

新宮

そうですか？

アルタイル

彼女の立場に立ってみれば、当然の反応だと思いますが。

新宮

そうかな。

アルタイル

雑誌の記事に書いてあったでしょう。浦さんのあだ名。

新宮

ホテル業界の帝王でしたっけ？

アルタイル

なぜ帝王と呼ばれるのか。それは経営のやり方がきわめて強引だったからで

新宮

す。土地の買い占め、会社の乗っ取り、国会議員との癒着。会社を大きくす

アルタイル

るためなら、どんなにひどいこともしてきました。

新宮

社員たちにも恐れられていたそうです。まるで、織田信長ですわね。

アルタイル

白浜さんはそんな人のゴーストライターをやることになった。怖がるのは当然

新宮

怖がる？ あなたは彼女が怖がっていたって言うんですか？

アルタイル

だから、あれほど入念に準備してきたんですよ。それなのに、あなたは「僕は浦神さんじゃない」なんて言い出した。逃げ出したくもありませんよ。

そこへ、道成寺・箕島がやってくる。

道成寺

旦那様、片づけをしてもよろしいでしょうか？

新宮

ああ、お願いします。（アルタイルに）彼女は逃げたんじゃない。自分から出ていったんです。

アルタイル

新さん、まずいですよ。

新宮

（道成寺・箕島に）あ、今のは気にしないでください。例の独り言ですから。

箕島

お飲み物のおかわりは？

新宮

いいません。ごちそうさまでした。

アルタイル

話の続きは明日にしましょう。今夜はもう遅い。（歩き出す）

新宮

待ってください、アルさん。僕はやっぱりこの体から出ます。すぐに別の体

アルタイル

を用意してください。

新宮

あなたって人はまた勝手なことを。

アルタイル

彼女はゴーストライターを辞めた。僕の助けは必要なくなっただけです。だって、僕がここにいない意味もない。

アルタイル

たった一度の失敗で、諦めるんですか？

新宮

仕方ないでしょう。彼女が僕を拒否したんだから。

アルタイル

新さん、見てください。（道成寺・箕島を指差して）二人がまた固まってま

アルタイル

す。

新宮

（道成寺・箕島に）僕のこと、変だと思ってますよね？

箕島

いいえ、大企業の経営者が、多忙のあまり、一時的に錯乱状態に陥るのは、

新宮

けっして珍しいことではないそうです。（道成寺に）そうですよね？

道成寺

（新宮に）私が言ったんじゃありません。新聞にそう書いてあったんです。行きますよ、箕島さん。

道成寺・箕島が去る。

アルマイル

あの二人もあなたを怖がってますよ。別の意味で。

新宮

やっぱり、僕はこの体から出た方がいい。一日も早く、別の体を見つけてく

アルマイル

ださい。撮影開始まで、あと十二日しかないんだから。そのことなんです、映画会社には聞いてみましたか？

新宮

聞くって何を？

アルマイル

あなたの役がどうなったかですよ。あなたが亡くなって、今日で八日目。代

新宮

わりの人が決まっています、おかしくないでしょう。

アルマイル

そう言えば、そうだ。どうしてもっと早く言ってくれなかったんです。

新宮

どうせ無理だと思っただんで。無理じゃない。僕は何が何でも出してみせますからね。

新宮・アルマイルが去る。

浦神信雄の部屋の前。道成寺・箕島が立っている。

箕島

旦那様は「アルさん」て人とお話をなさっているみたいですね。

道成寺

どこの国の人でしようか。

箕島

アル・パチーノはイタリア系アメリカ人です。

道成寺

こうは考えられませんか？ 旦那様は若い頃から、アル・パチーノに憧れて

いた。仕事に追い詰められて、幻のアル・パチーノに悩みを相談するようになった。
どこかで聞いたような話ですね。(歩き出す)
うわ、冷たい。それなら、あなたはどのような解釈をするんです。

道成寺・箕島が去る。
② 八月十日朝、映画のスタジオ。新宮・由良がやってくる。

由良 串本君はすぐに来ます。しばらくこちらでお待ちください。

新宮 彼は今、何を？

由良 撮影の準備です。セットの点検とか、衣裳の確認とか。クランクインまであと十一日しかないんで、朝から晩まで大忙しです。

新宮 それで電話に出ないのかな。

由良 串本君に電話したんですか？ どうして浦神さんが彼の電話番号を？

新宮 彼とは昔からの知り合いなんです。

由良 そんな話は初めて聞きました。そうと知っていれば、こちらからご挨拶に伺ったのに。

新宮 由良さんがどうして僕の所に？

由良 浦神さんもよくご存知でしょうが、映画を作るには莫大な資金が必要です。

新宮 浦神さんに出資していただけたら、私も串本君も非常に助かります。

由良 その話はまた次の機会に。ところで、今度の映画のことなんです、キャスティングはもう決まりましたか？
ええ、まあ。

新宮 決まったんですか？ 小野田の役も？

そこへ、串本がやってくる。

串本 お待たせしました。プリンセスホテルの浦神さんですね？ 初めまして。監督の串本です。

由良 え？ 君は浦神さんと知り合いじゃないの？

新宮 串本君と最後に会ったのは、彼が幼稚園の頃でしたからね。記憶に残ってないんでしょう。

串本 ええ、全然覚えてません。いつ、どこで会ったんでしょう？

新宮 それは今度、田舎に帰った時、ご両親に聞いてみるといい。そんなことより、君と二人だけで話したいんだ。ちよつと外に出られるかな？

串本 申し訳ありませんが、すぐにスタジオに戻らなくちゃいけないんですよ。話でしたら、ここでお願いします。

新宮 由良 (串本に) 浦神さんは今度の映画のキャスティングが知りたいみたいよ。(新宮に) そうですよ？

串本 ええ。(串本に) 特に知りたいのは、小野田の役で。あの役は、僕の友人の新宮って男がやるはずだったんですが、九日前に事故

新宮 串本 知ってる。

新宮 え？ 浦神さんは新宮のこともご存知なんですか？ 舞台を何度か見た。とてもいい役者だった。

由良

そうですね？ 私も彼の小野田を楽しみにしてたんです。

新宮

(串本に)で、新宮君のかわりに誰がやるか、もう決まったのか？

串本

それが今ちよつと難航してまして。何人かオーデイションを試みたんですが、新宮と較べると、みんな物足りなくて。

由良

(新宮に)私は早く決めろって言ってるんですが、彼がなかなかウンて言わないんです。

新宮

由良さん、ちよつと席を外してもらえますか？

由良

どうしてですか？

新宮

串本君と二人だけで話したいんです。僕の個人的なことで。

串本

でも、僕はスタジオに戻らないと。

由良

何をバカなことを言ってるの。今は映画より、浦神さんを優先しなさい。(新宮に)それじゃ、ごゆっくり。

由良が去る。

新宮

串本、俺と話をしてて、誰かを思い出さないか？

串本

誰かって？

新宮

だから、おまえの知り合いに、今の俺みたいな話し方をするやつがいただろう。ほら。

串本

そう言えば、小学校の時の校長先生にちよつと似てますね。年も浦神さんと同じくらいだったし。

新宮

そんな昔の知り合いじゃなくて、今の知り合いだよ。すみません。全然浮かびません。

串本

新宮 串本 新宮 串本 新宮 串本 新宮 串本 新宮 串本 串本 新宮 串本 串本 串本 串本 串本 串本 串本 串本 串本 串本

どうしてわからないのかな。新宮だよ。新宮弘樹だよ。新宮ですか？ でも、あいつは浦神さんよりずっと若いですよ。年のことは忘れる。俺の話し方だけに集中するんだ。それは無理ですよ。だって、顔も声も全然違うし。わかった。もういい。単刀直入に言う。いいか、串本。俺は新宮なんだ。この体は浦神信雄のものだけど、心は新宮弘樹なんだ。浦神さん、冗談はやめてください。頼む。信じてくれ。新宮は九日前に死にました。トラックに撥ねられて。僕は病院に行って、遺体にも会った。そうだよ。俺は確かに死んだ。でも、それは天使のミスだったんだ。だから、こうして帰ってきた。浦神信雄の体の中に。信じられないな。あなたはそんなバカげた話をするために、ここへ来たんですか？ おまえまで、「バカげた話」って決めつけるのか？ 目的は何です。新宮のフリをして、あなたに何の得があるんです。俺はおまえの映画に出たい。小野田の役がやりたいんだ。あなたが？ そんなの、無理に決まってるでしょう。そんなことはわかってる。小野田は若い武士だ。この体でできるわけない。だから、天使には「もっと若い体を探してくれって」って言うてある。見つけられ。もう一度ここに来る。だから、それまで小野田の役は空けておいてくれ。僕にはあなたが何を言ってるのか、全然わからない。

新宮 串本。
串本 でも、一つだけはつきりしてることがある。あなたは新宮じゃない。

そこへ、由良・和歌山がやってくる。

由良 浦神さん、申し訳ありません。お話はそこまでということにしていただけま
すか？

和歌山 監督、いつまで待たせるんだって、みんな怒ってますよ。

串本 (新宮に) それじゃ、僕は仕事に戻ります。

新宮 串本、俺は絶対に諦めないからな。

串本 どうぞ、ご勝手に。

串本・和歌山が去る。反対側へ、新宮・由良も去る。

①八月十日夕、浦神信雄の家、浦神信雄の部屋。新宮がやってくる。椅子に座る。そこへ、仁一・優花がやってくる。

仁一 お父さん、お帰りなさい。今日はどちらへお出かけでしたか？

新宮 ちよつと用事があつて、友達に会ってきました。

優花 黙ってお出かけになるから、心配しました。どうして家の車をお使いになら

新宮 なかったんですか？

仁一 都内を移動するなら、電車の方が速い。

新宮 電車に乗ったんですか？ お父さんが？

仁一 まずかったですか？

新宮 当たり前じゃないですか。お父さんの身に何かあったら、うちの会社はどう

仁一 なるんです。

優花 (新宮に) お帰りがあと一時間遅かったら、警察に捜索願を出すところでした。これからは絶対にお一人でお出かけにならないでください。

新宮 心配をかけて、すみませんでした。

仁一 会社の人間には、「熱が下がらないので、今日も自宅で静養している」って

新宮 ことにしてあります。僕に代行できる仕事は全部しておきました。でも、二

日連続の欠勤はまずい。お父さんのデスクには、決済待ちの書類が山のように

新宮 仁一 優花 新宮 優花 新宮 優花 新宮 優花 新宮 優花 新宮 優花 仁一 新宮 仁一 新宮

に溜まっています。
たったの二日で？

プリンセスホテルはお父さんがいなければ、一ミリも動かなくなるんです。
明日は午前六時に出社して、溜まっている仕事をやってください。

でも、僕にできるかな。

何を言ってるんですか。いつも、「俺の趣味は仕事だ。休みなんかいらない」
って豪語してるくせに。

（新宮に）一昨日、何かあったんですか？

何かって？

一昨日、釧路からお帰りなつてから、急にご様子が変わられましたよね？

どんなふうには？

言葉遣いが丁寧になつて、お顔の表情が明るくなって、お体の動きが身軽になつて。まるで五歳か十歳、若返つたみたい。原因は一体何ですか？

ひよつとすると、地下室の階段から落ちたせいかもしれません。

階段から落ちた？ 怪我はなかつたんですか？

それは全然。でも、頭を強く打つたせいとか、記憶が混乱しちゃつて。

落ちた時のことは覚えてないんですか？

ええ。たぶん、年のせいでしょう。一段踏み外したんでしょう。でも、地下室なんかへ、何をしに行つたんでしょうね？

そんなの、私にわかるわけじゃないですか。

（新宮に）とにかく、怪我はしなかつたんですね？ だったら、仕事には何の支障もない。明日は午前四時起床です。今夜は早めに寝てください。

仁一さん、やっぱり僕に社長の仕事は無理ですよ。

仁一　まさか、明日も休むって言うんじゃないでしょうね？
新宮　昨日も今日も、あなたが僕の代わりをしてくれましたよ。だって、明日もお願ひします。

仁一　僕は社長秘書に過ぎない。お父さんの代わりは務まりませんよ。
新宮　でも、いずれは次の社長になるわけだし。
仁一　何を言ってるんですか。「おまえに経営の才能はない。秘書をやらせてもら

新宮　でも、今の僕よりははるかにマシだ。お願ひします。
仁一　しかし。
新宮　たった今から、あなたを社長代理に任命します。会社のことは全部あなたに任せました。

そこへ、道成寺がやってくる。

道成寺　お話し中、失礼いたします。旦那様、お客様がいらっしやいました。

新宮　早速、仕事ですよ、社長代理。

道成寺　旦那様、お客様は岩代様と白浜様です。

新宮　白浜さんですか？ 一体何しに来たのかな。ゴーストライターは辞めたかと思っただのに。(仁一に) じゃ、そういうことで。

新宮・道成寺が去る。

仁一　今のを聞いたかい？ お父さんが僕を社長代理にするって。

優花 何、うれしそうな顔をしてるのよ。あんなの罠に決まってるでしょう？
仁一 罠って？

優花 あの人は気づいてるのよ。私たちの狙いに。

仁一 でも、階段から落ちたのは、自分のせいだと思ってる。背中を押されたことは覚えてない。

優花 そんなの、口だけに決まってるじゃない。あの人は私にこう言った。「地下室なんかへ、何をしに行ったんでしょね？」。でも、本音はこうよ。「地下

仁一 下室に誘き出したのはおまえだろう。背中を押したのもおまえだろう」
それは誤解だ。犯人は僕だ。

優花 そんなの、どっちでもいいじゃない。問題なのは、あの人に気づかれたってこと。あなたを社長代理にしたのは、いきなり重い役職に就けて、失敗させるためよ。

仁一 じゃ、これは罠なのか？

優花 だから、そう言ったでしょう？ 向こうがその気なら、こっちももう容赦しない。すぐに次の作戦を実行しましょう。
仁一 わかった。ベランダ作戦だな。

②夜、応接室。若菜・岩代が椅子に座っている。そこへ、新宮・道成寺がやってくる。

道成寺

岩代 お待たせいたしました。

新宮 浦神さん、アポイントメントも取らずに押しかけて、すみません。一刻も早くお詫びをと思ひまして。
お詫びって？

岩代

昨夜の件ですよ。本当に申し訳ありませんでした。白浜さんも深く反省して
いますので、今回だけはお許しただけじゃないでしょうか。白浜さん。

若菜

新宮

(新宮に)申し訳ありませんでした。
ということは、ゴーストライターは辞めないんですか？

岩代

本人はぜひ続けさせていたと言ってます。浦神さん、どうか白浜さ
んにもう一度チャンスをください。

新宮

岩代

いいですよ。
本当ですか？

新宮

岩代

僕はもとと白浜さんに書いてほしかつたし。昨夜は突然おかしな話を始め
た僕も悪かった。すべてを水に流して、もう一度始めからやり直しましょう。

岩代

新宮

ありがとうございます。
道成寺さん、僕にも何か飲み物をお願いします。

道成寺

畏まりました。

道成寺が去る。

新宮

若菜

(若菜に)でも、正直に言うと、驚きました。どうしてたったの一晩で気が
変わったんですか？

新宮

若菜

お恥ずかしい話ですけど、私は作家としてはまだ半人前です。自分の本を出
したことがあります。でも、この仕事をやり遂げれば。

新宮

自分の本が出せるってことですか。その気持ち、僕にもよくかわります。で
も、インタビュを始める前に、白浜さんにお断りしておかなくちゃいけな
いことがあります。

若菜

新宮

若菜

岩代

新宮

岩代

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

岩代

新宮

若菜

新宮

新宮

何ですか？

実は一昨日、地下室の階段から落ちましてね。頭を強く打ったんです。そのせいか、記憶が混乱してしまって、細かいことが思い出せない。

だから、いきなりあんな話を？

（新宮に）「僕は浦神さんじゃない」って仰ったそうですね。僕はてっきり、白浜さんをかからかわれたのかと思っただけです。

今の僕は、階段から落ちる前の僕じゃない。言ってみれば、偽物なんです。

それはちよつと言い過ぎでは？

いや、事実です。だから、白浜さんが期待しているような話はできない。

山田さんの話はもう聞きません。それと、稲原先生の話も。

でも、あなたは言いましたよね？「浦神さんが今まで誰にも話していないことを書きたい」って。

私は本当の浦神さんが書きたいんです。

でも、それは無理なんです。僕は偽物なんだから。

そんなに難しく考えることはないんじゃないかな。前に一度話したことも、相手が変われば、違う言葉になる。大切なのは、今、どう思うかですよ。そうだろう、白浜さん？

でも、僕は記憶が混乱しています。

だったら、浦神さんが話したいことを話してください。子供の頃から順番に。子供の頃の話ですか？

そこへ、箕島がやってくる。

箕島

新宮

箕島

新宮

若菜

箕島

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

岩代

新宮

若菜

新宮

新宮・若菜が去る。

お茶をお持ちしました。

箕島さん、君は何か聞いてないかい？ 浦神さんの子供の頃の話。

旦那様のですか？ そうですね。お父様が厳しかったというお話は何度もな

さつていました。毎日、グーで叩かれたって。

そういう暗い話じゃなくて、笑える話はないの？

箕島さんは子供の頃、何になりましたか？

私ですか？ 私はアイドルになりましたか？。テレビでモーニング娘。を

見て、私もあんなふうになりたいと思っちゃって。クラスの女子全員で練習

してました。

浦神さんは？ 一体何になりましたか？

僕は。浦神さんの時代だと、石原裕次郎か小林旭じゃないですか？

白浜さん、ちよつと来てください。

どこへ？

庭です。いいから、早く。

箕島

岩代

箕島

岩代

このお飲み物、どうしましょう？ お持ちした方がよろしいでしょうか？

いいって、いいって。しばらく二人だけにしておこう。それより、僕は子供

の頃、B♯が好きでね。稲葉浩志みたいになるのが夢だったんだ。

残念でしたね。僕としては結構いい線まで来てると思うんだけど。

③庭。新宮・若菜がやってくる。新宮の手には傘。

若菜 浦神さん、その傘は何ですか？ 雨は降ってませんよ。
新宮 これは刀の代わりです。家の中で振り回したら、危ないと思ったんで。

新宮が傘を刀のように振り回す。腰を押さえて、しゃがみ込む。

若菜 大丈夫ですか？
新宮 子供の頃に黒澤明の『七人の侍』を見たんです。三船敏郎が無茶苦茶カッコ

よかったです。僕もあんなふうになりたいと思った。それで役者を目指したんです。

浦神さんが役者を？ そんなの初耳です。

新宮 箕島さんの話を聞いて、ふと思いついたんです。

若菜 今はもう役者には興味がないんですか？

新宮 ありますよ。できることなら、今すぐにでもやりたいです。

若菜 だったら、やればいいのに。

新宮 無理ですよ。僕を使ってくれる監督なんて、いるわけがない。

若菜 だったら、自分で作ればいいじゃないですか。

新宮 作るって、映画をですか？

若菜 できるでしょう？ 今の浦神さんにはそれだけの力があるんだから。

新宮 僕が映画を作る？

その時、上から植木鉢が次々と落ちてくる。新宮が傘で植木鉢を次々と打ち落とす。そこへ、道成寺が走ってくる。

道成寺

旦那様、ご無事ですか？

新宮

僕は何ともない。白浜さんは？

白浜

平気です。全部、浦神さんが打ち落としてくださいだったので。

道成寺

（上を見て）二階のベランダから落ちたんですね。風も吹いてないのに、どうして。

新宮・若菜・道成寺が去る。

① 八月十日夜、廊下。仁一・優花がやってくる。

優花 どうしてベランダから落ちてきた植木鉢が打ち落とせるのよ。あの人は剣道の達人なの？

仁一 そんな話は聞いたことがない。中学高校はサッカー部だったはずだ。

優花 どうせ落とすなら、エアコンの室外機でも落とせばよかった。

仁一 よし、今度はそれで行こう。

優花 無駄よ。あの人に同じ手は通じない。上から何か落ちてこないか、警戒するに決まってる。

仁一 となると、次の作戦だな。

優花 もう考えてあるの？

仁一 一週間待ってくれ。今度は成功率一〇〇パーセントのヤツを考えるから。

優花 そこへ、箕島がやってくる。

箕島 仁一様、優花様、こんな所にいらっしやったんですか？

優花 今、庭の方で大きな音がしたけど、何かあったの？

箕島 ベランダから植木鉢が落ちたんです。旦那様がいらっしやる所に。

仁一 何てことだ。それで、お父さんは無事だったのか？
箕島 ええ、お持ちになっただけで、見事に打ち落とされたそうです。そんなこ

仁一 とより、旦那様が仁一様をお呼びです。
僕を？ 一体何の用だろうな。

② 仁一・優花・箕島が去る。
八月十一日朝、信雄の部屋。新宮・アルタイトルがやってくる。新宮は体操着を着ている。

アルタイトル その格好は一体何です。朝のラジオ体操でも始めたんですか？
新宮 ジョギングですよ。この屋敷の庭を走ってきました。今日はまだ初日なんで、

アルタイトル とりあえず十周。
わかりませんか。その体を鍛えて、どうしようって言うんです。

新宮 決まってるでしょう？ 映画に出るんですよ。
アルタイトル 待ってください、新さん。あなたは一昨日、こう言いましたよね？「すぐに

別の体を用意してください」って。
もしかして、用意しちゃいました？

新宮 昨日一日、監視所の天使を総動員して、探しました。それで、あなたのご希
アルタイトル 望にぴったりの人を見つけたんです。ブラジルのリオデジャネイロに住む、

新宮 ロナウド・デ・アシス・モレイラという人なんです。
申し訳ありませんけど、キャンセルさせていただきます。

新宮 今更何を言ってるんですか。
アルタイトル アルさんがいない間に事情が変わりましてね。白浜さんがゴーストライター

を続けることになったんです。

アルマイル 本当ですか？ 一昨日は、あんなに怒って出ていったのに。
新宮 その白浜さんに言われたんですよ。役者をやりたいなら、自分で映画を作ればいいって。

アルマイル それでジョギングを始めたんですか。

新宮 この体はちよつと年を取ってるけど、使いやすい。鍛えれば、前の体と同じように動けると思っています。

アルマイル だから、もう新しい体はいらないって言うんですか。あなたって人は、本当に勝手ですね。

新宮 アルさんには本当に申し訳ないと思ってます。ごめんなさい。

アルマイル それで、一体どんな映画を作るつもりなんです。
新宮 僕が出たい映画はたった一つですよ。

そこへ、道成寺・串本がやってくる。

道成寺 旦那様、串本様がいらっしやいました。

新宮 串本、いきなり呼びつけたりして、済まなかったな。撮影の準備で忙しかつ

串本 たんじやないか？

新宮 社長命令ですからね。断るわけには行きませんでした。

道成寺 道成寺さん、僕と串本を二人だけにしてください。飲み物はいりません。

道成寺 畏まりました。

道成寺が去る。

アル
タイ
ル

新宮 なるほど。あくまでも、串本さんの映画に出るつもりなんですか？

串本 言ったでしょう？「何が何でも出てみせます」って。

串本 浦神さん、誰に向かって、話をしてるんですか？

串本 天使だよ。おまえには見えないだろうけど、ここに天使がいるんだ。

串本 なるほど、天使ですか。で、僕に用事っていうのは？

串本 社長さんからは何も聞いてないのか？

串本 串本、よく聞いてくれ。俺はおまえの映画に出ることにした。この体で。

串本 やっぱりその話ですか。僕は無理だと申し上げたはずですが。

串本 確かに、小野田をやるには、年を取りすぎてる。でも、設定を中年の武士に

串本 すれば、できないことはないだろう。

串本 設定を変えるつもりはありません。

串本 そう言わずに、頼む。小野田が中年になったって、ストーリーに支障はない

串本 はずだ。

串本 たとえ変えたとしても、浦神さんには無理です。

串本 今の俺じゃ無理だろう。だから、クランクインまでに体を鍛える。芝居と殺

串本 陣の稽古もする。

串本 なぜそこまで小野田にこだわるんですか。あくまでも、自分は新宮だって言

串本 て言い張るつもりですか。

串本 そうだ。

串本 なぜ新宮なんです。小野田がやりたいなら、ただ「やらせろ」って言えば済

串本 む。なぜわざわざ新宮のフリなんかするんです。

串本 アルさん。

アル
タイ
ル

新
宮

私には何もできません。串本さんに信じてほしいなら、あなたが信じさせる
しかないんです。

串
本

串本、おまえは大学三年の時、借金を返すために、アルバイトをしたよな？

新
宮

店は新宿二丁目のゲイバー・クレオパトラ。おまえの源氏名はヴィクトリア。

串
本

なぜあなたが知ってるんです。

新
宮

それは俺も一緒にやったからだ。俺の源氏名はエリザベス。このことは、俺

串
本

とおまえの二人だけしか知らないはずだ。

新
宮

そうか。新宮のやつ、死ぬ前に誰かにバラしたんだ。

串
本

バラしてない。俺が知ってるのは、俺が新宮だからだ。

新
宮

それとも、浦神さんはクレオパトラに客として来たんですか？

串
本

おまえってやつはどこまで頑固なんだ。こうなったら。（串本に抱きついて、

串
本

頬にキスする）

アル
タイ
ル

やめろ！（新宮を引き剥がす）

新
宮

新さん、あなたはそっちの趣味だったんですか？

アル
タイ
ル

違います。これは僕のクセなんですよ。串本、靴を貸せ！

新
宮

（串本の靴を脱がせ、自分の靴も脱いで、ジャグリングする）

串
本

まさか。まさか。

新
宮

どうだ。これで信じてくれるか？

串
本

新宮。おまえは新宮なんだな？

新
宮

（うなづく）

串
本

新宮！（抱き締める）

アル
タイ
ル

おめでとうございます、新さん。愛の勝利ですね。

新宮

アルさん、まだ何か誤解してませんか？

串本

新宮、そこに天使がいるのか？

新宮

いる。おまえに向かつて手を振ってる。

串本

そうか。(アルタイルに) 串本欣也です。よろしくお願いします。

アルタイル

こちらこそ。

新宮

どうだ、串本。俺に小野田をやらせてくれるか？

串本

やらせるに決まってるじゃないか。設定を三十五にして、脚本を書き直す。

新宮

問題は、俺以外の人間はどう説得するかだな。

串本

そのことなら、心配しなくていい。社長さんにはもうオーケイしてもらった。一体どうやって？

新宮・アルタイル・串本が去る。

③ 八月十一日夕、玄關。若菜・優花がやってくる。

若菜

今、なんて言いました？ 浦神さんが映画会社を買った？

優花

ええ。お金に物を言わせて、株を買い占めたんです。

若菜

何のために？ まさか、映画に出るためにですか？

優花

どうしてもやりたい役があるんですって。私も夫も止めたんですけど、全く

若菜

聞く耳を持たないんです。

優花

もしかしたら、私のせいかもしれない。私が昨日、やれって言ったから。

若菜

あなたが唆したんですか？ だったら、あなたが止めてください。年寄りの

若菜

冷や水はやめておけって。それで、浦神さんは今、どちらに？

優花

庭で演技の練習です。

若菜・優花が去る。

④庭。新宮・アルタイル・道成寺・箕島が発声練習をしている。新宮・道成寺・箕島は体操着を着て、台本を持っている。

新宮

じゃ、発声はここまでにして、台本をやりましょう。十五ページの、シーン二十三です。配役は、僕が小野田で、道成寺さんが土方、箕島さんが立川です。いいですか？ 用意、スタート。

道成寺
箕島

(新宮に)「一人で来るとは大した度胸だな。相手をしてやる。抜け」
「待ってください、土方先生、この人の顔は、前にどこかで見たことがあります」

新宮

「あれから五年も経つのに、よう覚えちよったな。長州藩士・小野田鉄馬じゃ」

箕島
道成寺

「思い出した。叔父の診療所で、襲ってきたやつだ」
「俺も思い出した。長州訛りの二人組だ。年かさの方はなかなかの腕だったが、若い方はただ振り回すだけ。まるでキャンキャン吠える小犬のようだった」

新宮

「人は変わる。今のわしが小犬かどうか、その目で確かめるがいい」
「土方先生！」

道成寺

「立川、おまえは下がってる。小犬の始末は俺一人で充分だ」

新宮

「黙れ、土方！」

アルタイル

カット！ 新さん、小野田鉄馬が小野田へチマになってました。

新宮

え？ 僕は鉄馬って言ったつもりでしたけど。

アルマイル

やっぱり、あなたはタ行が苦手なんですね。滑舌棒はちやんと使ってますか？
使ってますよ。でも、一日や二日じゃ、なかなかよくならなくて。

新宮

新さん、見てください。(道成寺・箕島を指差して) またです。

道成寺

(道成寺・箕島に) つまり、今、僕が話をしていたのはですね。
わかっています。アルさんですよね？

新宮

そうですね。アルさんというのは。

道成寺

旦那様に演技の指導をなさっているんですよね？ よかったら、私たちにも

アルマイル

何かアドバイスをいただけませんか。

新宮

それではほんの一言だけ。道成寺さんの発声はすばらしいです。まさに超音

波ですね。箕島さんはもう少しリラックスした方がいいと思います。

道成寺

(道成寺に) 超音波。(箕島に) リラックス。
(アルマイルに) ありがとうございます。

新宮

ありがとうございます。

そこへ、若菜・優花がやってくる。

優花

お義父様、白浜さんがいらっしやいました。

新宮

あれ？ もうそんな時間か。(道成寺・箕島に) じゃ、今日の稽古はここま

道成寺

でにしましょう。お付き合いたいだいて、ありがとうございます。

道成寺

お疲れ様でした。

優花

優花様、申し訳ございません。お客様のご案内は私の役目でしたのに。

道成寺

いいのよ。あなたはお義父様のお相手で忙しかったでしょう？

道成寺

すぐに着替えてまいります。箕島さん。

箕島
優花

（新宮に）お茶はこちらにお持ちしますか？
それも私に任せて。（新宮に）お義父様のおかげで、大忙しです。あー、お
なかが空いた。今日の夕食は何かしら。

優花・道成寺・箕島が去る。

アル
タイトル

（新宮に）あの人は、あなたが映画に出ることに反対のようですね。

新宮

仕方ないです。そのために、大きな買い物をしちゃいましたから。

若菜

浦神さん、誰に向かって、話してるんですか？

新宮

もちろん、白浜さんですよ。映画会社を買った話、もう聞きましたか？

若菜

ええ、とつても驚きました。まさか、私のせいですか？

新宮

そうですね。あなたが「自分で作ればいい」って言ったから。

若菜

だからって、いきなり映画会社を乗っ取るなんて。

新宮

やり方が強引だったのは認めます。でも、串本の映画に出るには、これしか

若菜

方法がなかった。

新宮

串本って？

若菜

僕の親友です。今度の映画で、初めて監督をやるんです。

アル
タイトル

つまり、浦神さんは、親友のデビュー作に出演したくて、映画会社を買った
んですか？

新宮

そう。これは間違はなく、愛です。

若菜

違いますよ。僕はどうしても小野田がやりたくて。

新宮

凄いですよ、浦神さん。

新宮

何がですか？

若菜

浦神さん、一つ提案があります。私がこれから書く本は、浦神さんの過去じやなくて、今を題材にしたらどうでしょう？ あなたが映画に挑戦する姿を本にするんです。

アルマイル

それはつまり、自伝じゃなくて、ルポルタージュにするってことですね？

新宮

ルポルタージュ？

若菜

そうです。あなたが見たこと、感じたことを、私が書くんです。
(新宮に)それなら、浦さんの過去の話をしなくていい。新さんにとっても、好都合ですよ。

新宮

なるほどね。(白浜に)でも、僕が感じたことより、あなたが感じたことを書いた方が早くないですか？

若菜

そんなことをしたら、作者は私ってことになっちゃいます。

新宮

いいじゃないですか、それで。あなたは自分の本が出したいんでしょう？

若菜

だったら、堂々と、自分の名前で出すべきです。

新宮

ゴーストじゃなくて？

新宮

そうです。白浜若菜として。

新宮

新宮・若菜・アルマイルが去る。

八月二十一日昼、映画のスタジオ。串本・由良がやってくる。

由良 聞いた？ 昨日から広報部の電話が鳴りっ放しだって。「浦神さんの出番は

何時に始まる？」「終わった後は取材できるのか？」

串本 許可したんですか、取材？

由良 あまりに数が多いから、会議室で記者会見をすることにした。

串本 よかったじゃないですか、金をかけずに宣伝できて。

由良 それについては感謝してる。でも、問題は演技よ。浦神さんが何回NGを出

すか、賭けない？ 私は一〇〇回。

串本 そこまで悲惨なことにはならないと思いますよ。出演が決まってから、毎日

由良 自宅で稽古してきたみたいだし。

の？ やけに肩を持つじゃない。あなた、自分の会社を乗っ取られて、悔しくない

串本 僕はいいい映画が撮りたい。それだけです。

そこへ、仁一・和歌山がやってくる。

和歌山

由良さん、見学の方がいらっしやいました。浦神さんの息子さんです。

由良 （仁一に）初めまして、プロデューサーの由良です。この度は我が社に多額

の出資をしてくださって、ありがとうございます。

仁一 いや、それは父が勝手にやったことです。映画に出るって話も、決まった後に聞かされました。

由良 それはビックリなさったでしょう。

仁一 まあ、父の独断専行は今に始まった話じゃありませんから。でも、こちらの

皆さんにはいろいろご迷惑をおかけして、申し訳ないと思っております。

由良 いえいえ、浦神さんのおかげで、今度の映画は日本中に知れ渡りました。大ヒット間違いなしです。

仁一 そのかわり、父は日本中の笑い物になる。息子して、情けないです。

そこへ、南部拓三がやってくる。宇部の衣裳を着ている。

南部 おはよう。

由良 おはようございます、南部さん。いいですね、その衣裳。十歳は若く見えませよ。

南部 そうでないと困る。俺の役は三十五って設定だからな。で、俺の相棒役は？

串本 文太、浦神さんと呼んでこい。

和歌山 はい、ただいま。

和歌山が去る。

由良 すみません、南部さん。浦神さんは映画に出るのが初めてで、まだいろいろ

不慣れで。

南部

だったらもっと早く入りやあいんだ。ホテル業界の帝王だか何だか知らな

串本

いが、映画界じゃ新米だろう。俺を待たせるなんて、十年早い。

南部

浦神さんは今朝、六時に入ったんです。でも、衣裳が見つからなくて。

仁一

串本、どうしてあんなやつを庇うんだよ。自分の映画をメチャクチャにされ

南部

て、悔しくないのか？
本当に申し訳ありません。父に代わってお詫びします。

由良

誰だ、あんた。

仁一

浦神さんの息子さんです。

南部

（南部に）初めまして、浦神仁一です。プリンセスホテルで社長代行を務めて

仁一

います。
南部拓三です。今回は浦神さんと共演できて、非常に光栄です。

南部

どうかご無理をなさらないください。僕には皆さんのお気持ちがよくわか

仁一

ります。息子の僕から見ても、父のやり方はひどすぎます。

南部

そうですよね？
南部さんの仰る通り、父は映画界では新米です。ご迷惑をおかけしたら、遠

仁一

慮なく叱ってください。

南部

そんなことをしたら、根に持たれませんかね？

仁一

心配いりません。皆さんのことは、僕が全力でお守りしますから。

そこへ、和歌山がやってくる。後から、新宮・若菜がやってくる。新宮は小野田の衣裳を着ている。

和歌山 串本 新宮 南部 由良 南部 若菜 南部 新宮 南部 由良 串本 由良 串本 南部 新宮 南部 由良 串本 仁一 新宮 仁一 和歌山 串本 南部

浦神さんが来ました。履物が見つからなくて、ずっと探してたんだそうです。今度は履物かよ。一体どうなってるんだ。

遅くなつてすみません。南部拓三さんですね？ 初めまして、浦神信雄です。よろしく。今、助監督から聞いたよ。履物が見つからなかったんだって？

ひよつとして、誰かに隠されたんじゃないの？

まさか。小学校のイジメじゃあるまいし。何言ってるんだ。この世界じゃよくあることだよ。俺も若い頃はよくやられた。生意気だったからな、俺は。

でも、浦神さんは何もしてません。誰だ、あんた。

僕の知り合いで、作家の白浜若菜さんです。仕事場に女を連れてきたのか。それじゃ、苛められても仕方ないな。

まあまあ。串本くん、そろそろ始めない？

そうですね。(新宮・南部に) じゃ、このシーンの段取りを説明します。ここは函館にある旅籠の二階です。宇部が窓辺に座って、酒を飲んでる。すると、小野田がこっちの襖を開けて、飛び込んでくる。会話があって、最後は小野田が飛び出していく。

了解。

じゃ、とりあえず、通して一回やってみますか。

(新宮・南部に) それじゃ、お二人とも、スタンバイをお願いします。

(浦神に) お父さん、頑張ってくださいね。

仁一さん、来てくれたんですね。会社の方はいいんですか？

このシーンだけ見たら、すぐに戻ります。期待してますからね。

若菜 あんまりプレッシャーをかけないでください。(浦神に) 落ち着いて、練習

新宮 の通りにやればいいんです。
ありがとうございます。頑張ります。

南部が座る。新宮が部屋の外に立つ。

和歌山 浦神さん、準備はいいですか？ 始めますよ。シーン十二、テスト。

串本 用意、スタート。

新宮 「宇部！ 宇部！」

南部 「どねえしたんじゃ、小野田」

新宮 「土方じゃ。その旅籠に土方が来ちよる」

南部 「ほりやあ何かの間違いじゃろう。やつは今、五稜郭におるはずじゃ」

新宮 「じゃけど、わしは見たんじゃ。やつが連れと二人で入るところを」

南部 ……

和歌山 南部さん、「沖田か？」です。

南部 知ってるよ。でも、今の浦神さんの芝居じゃ、そのセリフは出せないよ。

新宮 すみません。

南部 テストだからって、気を抜かないでさ、本気で行こうよ。

新宮 わかりました。

串本 それじゃ、もう一回最初から行きましょう。

南部が座る。新宮が部屋の外に立つ。

和歌山

シーン十二、テスト。
用意、スタート。

串本

「宇部！ 宇部！」

新宮

「どねえしたんじゃ、小野田」

南部

「土方じゃ。その旅籠に土方が来ちよる」

南部

「ほりやあ何かの見間違いじゃろう。やつは今、五稜郭におるはずじゃ」

新宮

「じゃけど、わしは見たんじゃ。やつが連れと二人で入るところを」

南部

「わしには信じられん」

和歌山

南部さん、違います。「沖田か？」です。

南部

だから、言われなくても、わかってるって。俺だって、台本通りにやりたい

串本

んだ。でも、今の浦神さんの芝居じゃ無理だよ。

南部

南部さん、これはテストですから、とりあえず最後までやってもらえませんか。

南部

俺はテストだろうが何だろうが、本気じゃないとできないんだよ。それとも、

新宮

監督さんは俺に手を抜けて言うわけ？

新宮

いや、悪いのは僕です。僕の気持ちじゃ足りないんです。南部さん、もう一回

串本

お願いします。

串本

それじゃ、もう一回最初から。

若菜

（新宮に歩み寄って）あの人、わざと意地悪してますよ。どうして抗議しないんですか？

新宮

僕は役者です。役者は演技で戦うしかないんです。

南部が座る。新宮が部屋の外に立つ。

和歌山

浦神さん、行きますよ。シーン十二、テスト。用意、スタート。

串本

「宇部！ 宇部！」

新宮

「どねえしたんじゃ、小野田」

新宮

「土方じゃ。その旅籠に土方が来ちよる」

新宮

「ほりやあ何かの見間違いじゃろう。やつは今、五稜郭におるはずじゃ」

新宮

「じゃけど、わしは見たんじゃ。やつが連れと二人で入るところを」

新宮

「わしには信じられん」

新宮

（南部の胸ぐらを掴んで）「わしの目に狂いはない。新選組の隊士で、名は

南部

確か、立川」

新宮

「あの、滅法足の速い男か」

南部

「宿の女中の話によると、土方は女子の客を訪ねてきたようじゃ。新選組の

新宮

副長ともあるう者が、戦の最中に逢い引きとは笑わせる」

南部

「おまえ、やつを斬るつもりか」

新宮

「もちろんじゃ。あの時、やつが来なければ、わしらは沖田を斬ることがで

南部

きた。徳山さんの仇を討つことができたんじゃ」

和歌山

「その気持ちはわしにもようわかる。じゃけど、おまえに土方は斬れん」

新宮

南部さん、「斬れるか？」です

南部

（南部に）「ほうかもしれん。じゃけど、おまえが手伝うてくれたら」

新宮

「戦の最中に私闘はいかん。わしらの隊の者を集めて、その旅籠を取り囲む

新宮

んじゃ」
「斬らずに生け捕りにするっちゅうんか。わしは反対じゃ」

南部

新宮

南部

新宮

新宮

新宮が走り出す。

「土方は手強い。あの時、おまえも足を斬られたじやろうが」

「あの時の痛みはよう覚えちよる。次に会うた時は必ず斬る。わしはそう誓う誓うたんじゃ」

「待て、小野田」

「すぐに戻る。土産に、土方の首を持ってくるけえ、楽しみにしちよれ」

串本

南部

新宮

南部

新宮

新宮

新宮

南部

和歌山

南部

南部

串本

由良

串本

カット！

浦神さん、参りましたよ。とても素人とは思えない。本当は前にどこかでや

つてたんでしょう？

実は舞台を少しだけ。

やっぱりね。俺がセリフを変えても、ちゃんとアドリブで返してきた。いや、

大したもんだ。

いえいえ。僕の方こそ、南部さんと共演できて、本当にうれいす。でも、

本番は。

わかってますよ。台本通りにやりましょう。

それじゃ、今からセッティングに入りますので、しばらく楽屋でお待ちくだ

さい。

了解。

由良さん、どうです？ これなら、行けそうでしょう？

一回だけじゃわからない。でも、さっきの賭け、三回に変えさせて。

NGの数ですか？ 僕はゼロに賭けますよ。

仁一

新宮

仁一

若菜

新宮

若菜

新宮

新宮

(新宮に) それじゃ、僕は会社に戻ります。

わざわざ来てくれて、ありがとうございました。

いえいえ。でも、驚きましたよ。お父さんが南部拓三に褒められるなんて。

(新宮に) みんな現金ですね。浦神さんの演技を見たら、ころっと態度を変

えちやつて。

少しは認めてもらえたのかな。

でも、ここで気を抜いちやダメですよ。

わかってます。僕はこの世界では新米ですから。

新宮・若菜・仁一・串本・由良・和歌山・南部が去る。

① 八月二十五日夕、スタジオ。新宮・アルタイルがやってくる。

アルタイル

新さん、撮影は順調のようですね。

新宮

おかげさまで。クランクインから今日で五日目。今のところ、NGナシです。

アルタイル

それはすばらしい。ところで、撮影が終わるのは一カ月後ですよ？ その

頃に亡くなる人を、何人かピックアップしてきました。見てください。

新宮

次の体の候補ですか？

アルタイル

そうです。(スマートフォンを差し出して) 一人目はフィンランドのヘルシ

新宮

ンキに住む、ユッシ・ヤースケライネン。

新宮

アルさん、その話はまた今度にしましょう。

アルタイル

しかし、一カ月なんてアツという間ですよ。今のうちに選んでおいた方が慌

てずに済みます。

新宮

でも、撮影が終わっても、宣伝とか、舞台挨拶とかがあるし。次の映画の話

が来るかもしれないし。

アルタイル

まさか、このまま、その体を使い続けるつもりじゃないでしょうね？

新宮

まずいですかね？

アルタイル

私は別に構いませんが、あなたはそれでいいんですか？

新宮

僕はこの体が気に入ったんです。周りの人たちも、浦神信雄って人間を、役

者として認めてくれるようになってきたし。
アルタイトル 夢がかなったというわけですか。
新宮 それはまだです。まだ撮影は終わってませんから。
アルタイトル 今日の撮影は？
新宮 いいよ僕の見せ場です。

そこへ、佐野慎吾がやってくる。土方の衣裳を着ている。

佐野 「小野田、ゆきはどこにいる」
新宮 「戦より女子の方が大事か。全く情けない男じゃのう」
佐野 「そうかな？ 惚れた女を見捨てる方が百倍情けないと思うが」
新宮 「空威張りはやめにせえ。今のおまえには何も無い。近藤も死んだ。沖田も死んだ。残っちはよるのはあの女子だけじゃ。ほいじゃけえ、失いとうないんじやろうか」
佐野 「わかかってねえな。おまえにはまるでわかってねえ」
新宮 「何がじゃ」
佐野 「近藤さんはここに居る。総司もここに居る。俺には二人の姿が見える」
新宮 「ほりゃあ幻じゃ。幽霊じゃ」
佐野 「違う。魂だ。俺には二人の声が聞こえる。トシ、前に進めって声が」
新宮 「負け犬が偉そうな口を叩くな！」

新宮が佐野に斬りかかる。佐野がかわして、新宮に斬りかかる。新宮が避ける。

佐野 「俺は武州日野の生まれでな。大人になるまで、海つてもものを見たことがな

かったんだ」

「いきなり何の話じゃ」

新宮 佐野 「波つてやつはすげえよな。朝から晩まで、休むことなく、打ち寄せる。砂

浜でも、岩場でも、ただひたすら。男つてもものは、波のように生きるべきだ。

そう思わねえか？」

新宮 「黙れ！」

新宮が佐野に斬りかかる。激しい斬り合い。佐野が新宮を斬る。新宮がひざまずく。
そこへ、仁一・串本・由良・和歌山がやってくる。

串本 カット！ オークイ。今の、いただきます。

和歌山 (新宮・佐野に) お疲れ様でした。

由良 (佐野に) よかった！ 佐野くん、最高だったよ！

佐野 そうですか？ 僕、ちよつと、殺陣を間違えちゃって。(新宮に) 浦神さん、

すみませんでした。

いや、おかげで、僕も必死になりました。

新宮 佐野 それは僕のセリフですよ。浦神さんの動きが速いから、負けるもんかと思っ

て。こんなに熱くなれたのは初めてです。ありがとうございます。

由良 (新宮に) 浦神さん、またNGを出しませんでしたね。たまにはロレつても

いいんですよ。

串本 由良さん、浦神さんの辞書にNGって言葉はないんですよ。

和歌山 次はシーン六十七です。皆さん、準備をお願いします。

仁一
新宮
（新宮に）お父さん、僕は今、猛烈に感動しています。お父さんは凄い。
仁一さん、毎日来てくれるのはうれしいですけど、あなたは社長代行なんですから。

仁一
アルマイル
すぐに会社に戻ります。でも、明日も必ず来ますから。
（新宮に）仁一さんはあなたのファンになってしまったようですね。

仁一が去る。そこへ、若菜がやってくる。

若菜
浦神さん。

新宮
白浜さん、今の、見てくれました？

若菜
ごめんなさい。本番が始まる前に、叔母から電話があつて。私、急いで帰らないと。

新宮
何かあつたんですか？

若菜
母が出先で倒れたらしいんです。母は前から重い病気に罹っていて。

新宮
わかりました。行きましょう。

若菜
浦神さんですか？

新宮
今日の出番は終わりです。着替えてる暇はないな。このまま行きましょう。
（由良たちに）お疲れ様でした。

新宮・若菜が去る。

由良
和歌山
串本くん、浦神さんの演技を見てると、新宮くんを思い出さない？
僕も全く同感です。しゃべり方や動き方がよく似てますよね。

佐野
串本

その人、克蘭クインの前に亡くなったんですよ？
ええ。でも、土方のセリフじゃないけど、新宮はここにいます。僕にはあいつの姿が見えます。

アルタイル

確かにこのまま浦さんとして生きる方が、新さんには幸せかもしれないですね。

② アルタイル・串本・由良・和歌山・佐野が去る。
八月二十五日夕、若菜の家。新宮・若菜・白浜邦子がやってくる。

邦子

さあ、どうぞ。

若菜

お母さん、寝てなくて、平気なの？

邦子

大袈裟なのよ、洋恵は。病院に行って、注射してもらったら、すぐによくなつた。でも、念のために、今日は家で休むことにしたの。

若菜

だったら、すぐに着替えて、ベッドに入って。

邦子

そういうわけには行かないわよ。せっかく浦神さんが来てくださったんだから。(新宮に) その格好で電車に乗ったんですか？

新宮

いや、車です。電車に乗ると、怒られるんで。

若菜

(邦子に) ベンツ。しかも、運転手つき。私も乗せてもらっちゃった。

邦子

やっぱり、大企業の社長さんともなると、違うのね。お久しぶりです、浦神さん。

新宮

え？ 僕は前にあなたとお会いしたことがあるんですか？

若菜

信じられない。母のこと、覚えてないんですか？

新宮

お顔はどこかで見た記憶があるんですが。

若菜

白浜邦子。結婚する前は、椿邦子。

新宮 若菜 新宮 邦子 若菜 邦子 若菜 邦子 若菜 邦子 若菜 邦子 若菜 邦子 若菜 邦子 若菜 邦子 若菜 邦子 若菜

ダメだ。思い出せない。ほら、前に言ったでしょう？ 地下室の階段から落ちてから、記憶が混乱してるって。

それは知ってますけど、幼稚園の友達ならともかく、恋人を忘れるなんて。恋人？ 白浜さんのお母さんが？

仕方ないですよ。もう三十三年も前の話なんだから。

でも、お母さんは覚えてるじゃない。(新宮に) 浦神さんにとっては、母を捨てたことなんて、些細な出来事だったんでしょね。

違うのよ、若菜。あなたは誤解してる。

誤解って？ 私に捨てられてなんかいない。別れようって言い出したのは、私の方なの。嘘。

浦神さんは私に結婚しようって言ってくれた。私もそうしたいと思った。でも、うちは小さなクリーニング屋だったからね。浦神さんの家とは身分が違う。浦神さんのご両親だけじゃなくて、うちの両親にも反対された。苦労するだけだった。

それで、諦めたの？

笑われるかもしれないけど、私たち、駆け落ちするつもりだったのよ。でも、家を出る時、父に見つかっちゃって。叩かれるかと思ったら、ボロボロ泣き出しちゃって。それで初めて気がついたの。ここまで育ててくれた両親を裏切るわけには行かないって。

どうして先に言ってくれなかったの？ 私ったら、すっかり勘違いしちゃって。

私は捨てられたなんて、一言も言ってないよ。

新宮 大切な思い出ですから。それじゃ、僕は帰ります。邦子さん、どうかお体を大事になさってください。
邦子 浦神さんも、どうかお元気で。
若菜 私、そこまで送ります。

新宮が去る。

邦子 若菜、ありがとう。浦神さんに会わせてくれて。
若菜 私が誘ったわけじゃない。浦神さんが勝手にきちやったの。
邦子 やっぱり、人って、三十三年も経つと変わるのね。私が知ってる浦神さんと全然違った。若い頃はもつと気難しかったのよ。
若菜 大企業の社長さんとは思えないほど、謙虚だよ。正直で、優しく、前向きで。
邦子 珍しいわね。あなたが男の人を褒めるなんて。
若菜 変な勘繰りはやめて。私は浦神さんを尊敬してるの。ただそれだけよ。

若菜・邦子が去る。

① 八月二十六日夜、玄関。仁一がやってくる。反対側から、優花がやってくる。

優花 お帰りなさい、仁一さん。今日も残業？
 仁一 ああ。親父の代わりに五つも会議に出て、くたくただ。
 優花 五つじゃなくて、四つでしょう？ 会社を抜け出して、どこへ行ってたの？
 仁一 撮影所だよ。親父がまたワガママを言っていないかどうか、心配で。
 優花 仁一さん、わかっている？ 今のあなたは社長代理なのよ。あなたの実力を発揮するチャンスじゃない。あの人のことなんか放っておいて、バリバリ仕事を
 仁一 をして、社員たちの信頼を勝ち取るのよ。
 優花 そうしたいとは思っているんだけど、会議に出ても、なかなか発言する機会が
 仁一 なくて。たまに何か言っても、無視されるし。
 優花 それで撮影所へ逃げたってわけ？ 仁一さん、撮影所は保健室じゃないのよ。
 仁一 わかった。これからは絶対にサボらない。
 優花 それで、次の作戦は？
 仁一 あれからずっと考えてるんだけど、なかなかいいのが浮かばなくて。
 優花 まさかとは思うけど、このままあの人を生かしておくつもりじゃないでしょうね？
 仁一 でも、親父のやつ、結構いい演技をしてるんだよ。あの映画、きつと当たる

優花 そんなの、私たちには関係ないでしょう？
仁一 それはそうだけど、今、親父が死んだら、たくさんの人に迷惑がかかるし。
優花 仁一さん、思い出して。あなたは今日まであの人の奴隷だった。あの人が生きていた限り、自由になれない。だから、殺すしかないの。そうよね？
仁一 そうだ。他に方法はないんだ。

そこへ、道成寺がやってくる。

道成寺

仁一様、お帰りでしたか。ご夕食はいかがなさいますか？

仁一

シャワーを浴びてからにする。親父はまだ帰ってきてないの？

道成寺

先程、お電話がありました。白浜様のお母様がお作りになった、レストランにいらつしやるそうです。オープン前の試食会だとか。

優花

じゃ、帰りは遅くなるのね？

道成寺

何時になるかわからないので、電車で帰るとのことでした。

仁一

そのレストランはどこにあるの？

道成寺

清澄白河です。店の名前は、つばき食堂。

優花

素敵な名前ね。(仁一に) 私たちも一度、行ってみましょうよ。

仁一・優花が去る。そこへ、箕島がやってくる。

箕島

道成寺さん、旦那様からメールが来たんですけど、見ます？(スマートフォンを差し出す)

道成寺
箕島

あなた、旦那様とメールのやりとりをしてるんですか？
昨日、アドレスを教えてくださいって言われて。白浜さんと親しくなるために、
アドバイスがほしいんだそうです。

道成寺

(スマートフォンを見て)「プレゼントは指輪でいいかな？」

箕島

「いきなり指輪は重い。イヤリングで充分」って返信しておきます。

道成寺

旦那様の心の万年雪が解け始めたようですね。

箕島

道成寺さんも負けてられませんよ。あ、余計なお世話ですね。

② 道成寺・箕島が去る。
八月二十六日夜、邦子のレストラン。新宮・若菜・邦子がやってくる。

新宮
若菜

(邦子に) すみません、こんな遅い時間になっちゃって。
(邦子に) 撮影が伸びたんだ。南部さんがアドリブを連発して、收拾がつか
なくなっちゃって。

新宮
邦子

(邦子に) あの人はとても自由なんです。
今日のお客様は浦神さんだけです。どうかごゆっくりなさってください。料
理が全部出し終わったら、シェフを紹介しますね。

新宮
邦子

シェフはあなたの妹さんなんですよね？
そうです。つい最近まで青山のレストランで働いてたんですけど、独立して、
私と二人でこの店を作ったんです。

新宮
邦子
若菜

そのお年でレストランを始めるなんて、凄い決断ですね。
ええ、まあ。
お母さん、病気のこと、浦神さんに話していい？

邦子　　いいよ。今、お水をお持ちしますね。

邦子が去る。

若菜　　浦神さん、母は膵臓ガンなんです。見つかったのはつい最近で。

新宮　　そんな人が、普通に働いてて、いいんですか？

若菜　　膵臓の手術は難しいので、薬で治療することになったんです。同じ病気で、

十年以上、生きてる人もいますそうです。

でも、あまり無理はしない方が。

新宮　　私もそう言ったんですけど、母は聞く耳を持たなくて。自分で食堂をやるの

が、昔からの夢だった。そう言つて、三十年以上も勤めた図書館を辞めて、

この店を開いたんです。

そこへ、邦子がやってくる。手にはコップを載せたお盆。

邦子　　お待ちせしました。メニューは「シェフのお薦めコース」をご用意しています。

浦神さんは何か食べられないものはありますか？

新宮　　皆無です。それより、ご病気のことで、お聞きしました。病気に負けずに、こ

のお店を始めたこと、凄い勇気だと思います。

邦子　　私なんかより、浦神さんの方が凄いですよ。そのお年で映画に出るなんて。

邦子が去る。

若菜
新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

新宮

若菜

私もそう思います。浦神さんのこと、尊敬してます。
いや、僕は運がよかったんですよ。心身ともに健康だったし、映画会社を買
うお金もあつた。監督の串本とも知り合いだった。映画に出られたのは、僕
の実力じゃありません。
でも、撮影が始まってからは？ 浦神さんはプロが驚くような演技をした。
クランクインから今日まで、いまだにNGを出してない。
初心者が迷惑をかけるわけには行きませんから。
そのために浦神さんがどれだけ努力したか、私は知ってます。母より年上だ
なんて、信じられません。
白浜さん、僕は何歳に見えますか？
そうですね。見た目は五十歳。でも、演技をしてる時は私のちよつと上。三
十二、三歳かな。
本当ですか？ 僕に気を遣つて、少なめに言つてませんか？
いいえ、本当にそう思います。浦神さんを見ると、映画の中の土方のセリ
フを思い出すんです。
「男つてのは、波のように生きるべきだ」ですか？
映画に出るって決めてからの浦神さんは、一瞬も休んでない。ひたすら、演
技のことだけ考えてる。土方に負けないぐらい、カッコいいです。
（箱を差し出して）白浜さん、よかつたら、これをもらつてください。
何ですか、これ？
イヤリングです。気に入ってもらえるといいんですけど。
どうしてこれを私に？
僕は白浜さんの言葉で、映画に出るって決めた。そのお礼です。それと。

若菜 それと、何ですか？

 そこへ、アルマイルがやってくる。

アルマイル 新さん、お話し中に申し訳ありませんが、緊急事態です。

新宮 緊急事態？ 悪いけど、後にしてくれませんか？

若菜 浦神さん、誰に向かって、話してるんですか？

新宮 いや、その、会社から電話がかかってきて。(スマートフォンを出して) 今、

アルマイル 忙しいんです。一時間後にかけて直してください。

新宮 そういうわけには行きません。これはあなたの運命に関わることなんです。

アルマイル (若菜に) 電話のことは忘れて、話の続きをしましょう。

新宮 (発声練習を始める)

アルマイル うるさい！(若菜に) またかかってきました。何か重大な事件が起きたみたいです。ちよつと外で話してきます。

 新宮・アルマイルが店の外に出る。

新宮 何ですか。いきなりこんな所まで押しかけてきて。

アルマイル 突然の話で驚かされるでしょうが、その体から出ていただくことになりました。

新宮 出る？ 一体どうしてですか？

アルマイル 浦さんは亡くなるんです。今から一時間後に。

新宮 勝手なことを言わないでください。僕はこの体が気に入ったと言ったはずで

すよ。

アル
新宮
お気の毒ですが、運命が変わったんです。
何が「運命が変わった」だ。もともと、僕は死ぬ運命じゃなかった。僕を間
違えて殺したのはあんたたちじゃないか。それなのに、また勝手に殺すのか？

僕の意思は無視して。

アル
そのことについては何度でもお詫びします。が、あなたが浦さんの体に入っ

たことで、たくさんの人の運命が変わった。その結果、浦さんは一時間後に
死ぬことになったんです。

新宮
僕は誰かに殺されるのか？ だったら、アルさんが止めてください。

アル
すべては神様がお決めになったこと。誰にも動かすことはできません。

新宮
でも、映画の撮影はまだ終わってない。今、僕が死んだら、一から撮り直さ

なくちやいけなくなる。

アル
それは仕方ないことです。

新宮
せっかく小野田の役がもらえたのに。白浜さんと仲良くなれたのに。

アル
まだ一時間残っています。その間に、別れを告げてください。

新宮
アルさん。

アル
大丈夫。あなたなら、もう一度、一から始められます。

新宮
新宮が店の中に戻る。

若菜
会社の方、大丈夫そうですか？

新宮
それがその、僕がすぐに行かないとまずいよう。申し訳ありませんけど、

これで失礼です。

若菜
そうですか。残念ですけど、仕方ないですね。

新宮 白浜さん、もし僕の身に何かあっても、本は必ず書き上げてください。
若菜 何かあってもって、どういうことですか？

新宮 たとえば、死んだりとか。

若菜 浦神さん、そんな縁起の悪いこと、言わないでください。

新宮 仮定の話ですよ。僕はあなたに本を出してほしい。一日でも早く、プロの作

新宮 家になってほしいんです。

若菜 本を一冊出したからって、すぐにプロになれるとは限りませんよ。

新宮 そんなの、出してみなくちゃわからないでしょう？ 玉子の殻を割らなけれ

若菜 ば、目玉焼きは食べられない。

若菜 え？

新宮 やってみくちやわからないってことですよ。

若菜 そうですね。目玉焼きが食べたかったら、まずは玉子の殻を割らなくちゃ。

新宮 そう、その意気ですよ。じゃ。

若菜 浦神さん、またすぐに会えますよね？

新宮 ええ、必ず。

若菜 絶対ですよ。いいですね？

新宮 絶対にあなたに会いに行きます。僕は嘘はつきません。

そこへ、邦子がやってくる。

邦子
新宮

浦神さん、どうかなさったんですか？

今すぐ会社に行かなければなりません。せっかくお招きいただいたのに、一口も食べなくて、申し訳ありません。

邦子
新宮
邦子
邦子
いいえ、この店を見てもらえただけで、うれしいです。
明日から、頑張ってください。くれぐれも無理をしないで。
浦神さんも。

新宮・アルマイルが去る。

邦子
邦子
どうしたの？ そんなに悲しそうな顔をして。

若菜
邦子
何でもない。

邦子
若菜
仕方ないわよ。浦神さんには大勢の社員に対する責任があるんだから。

邦子
若菜
(箱を開いて) 浦神さん、これを私にくれたの。

邦子
若菜
(箱を見て) あら、貝殻のイヤリング？

若菜
(イヤリングを取り出して) これをつけたら、聞こえるかな。波の音。

若菜・邦子が去る。
車が暴走し、何かにぶつる音。

① 八月二十六日夜、路上。新宮がやってくる。反対側からアルタイルがやってくる。

アルタイル

新さん、お疲れ様でした。

新宮

人を車で轢き殺しておいて、「お疲れ様でした」だけですか。

アルタイル

轢いたのは私じゃありません。それに、あなたは即死だった。痛みを感じている暇はなかったはずですよ。

新宮

確かに。でも、あの運転手、ひどいですね。僕の姿は見えただけなのに、ブレーキをかけたようとしなかった。

アルタイル

なぜだと思えますか？

新宮

え？ まさか、わざと？

アルタイル

安心してください。あの運転手は三時間後に警察に自首します。

新宮

動機は？ なぜ僕を殺そうと思ったんですか？

アルタイル

復讐ですよ。あなたじゃなくて、浦さんに復讐したんです。

新宮

浦さんのことを恨んでたんですね。でも、僕は浦さんに感謝してます。浦さんのおかげで、小野田ができました。道成寺さんや箕島さんや、たくさんの人に

アルタイル

出会えた。

アルタイル

その言葉、浦さんに伝えておきますよ。でも、その前に、あなたを次の体に連れていかないと。

新宮　　今度はどんな体ですか？ブルジル人ですか？フィンランド人ですか？
アルタイル　それがなんと、日本人なんです。ラッキーでしたね。
新宮　よかった。それなら、すぐに串本に会いに行ける。
アルタイル　やっぱり映画に出るつもりなんですか？
新宮　当たり前じゃないですか。さあ、行きましょう。

新宮・アルタイルが去る。
②病院の病室。浦神がベッドで寝ている。その周りに、優花・道成寺・箕島が立っている。そこへ、若菜・岩代・仁一がやってくる。

仁一　優花、岩代さんと白浜さんがいらつしやったよ。
岩代　（優花に）突然、押しかけて、申し訳ありません。白浜さんが、浦神さんに
優花　一目だけでもお会いしたいと言いました。
（若菜に）どうぞ。

若菜がベッドに歩み寄り、浦神の顔にかかった白布をめくる。

仁一　家のすぐ近くで、車に撥ねられたんです。犯人は父をそのままにして、逃げ
岩代　ました。救急車が駆けつけた時には、もう心臓が停まっていたそうです。
仁一　犯人の行方は？
岩代　わかりません。警察の話によると、現場にはブレーキの痕がなかったそうで
す。つまり、犯人は父をわざと轢いた可能性があるんです。
岩代　それはつまり、殺そうとしたってことですか？でも、一体誰が。

優花 若菜 岩代 若菜 仁一 若菜 岩代 若菜 仁一 岩代 若菜 仁一 岩代 道成寺 道成寺 道成寺 道成寺 優花 箕島 道成寺 箕島

義父はたくさんの人に憎まれていました。数え上げたらキリがありません。

あの。

何だい、白浜さん。
(仁一に) 事故が起きる一時間前まで、浦神さんは私の母のレストランにいました。そこに会社から電話がかかってきたんです。すぐに来てほしいと。

相手は名前を名乗ったんですか？

それはお聞きしませんでした。浦神さんは慌てて店を出ていきました。でも、その前に、気になることを仰ったんです。

気になることって？

「僕の身に何かあったら」って。浦神さんはご自分の命が狙われていることに気づいていたのかもしれない。

仁一さんはどうです？ 浦神さんから何か聞いてませんか？

いや、僕は何も。

仁一様、覚えていらっしやいますか？ 半月ほど前に、ベランダの植木鉢が落ちましたよね？ 旦那様の頭の上に。

ああ。幸い、父に怪我はなかったけど。

あの日はいいお天気で、風も吹いてませんでした。なぜ植木鉢が落ちたのか、原因はわかりませんでした。

あなたは、誰かが落としたりして言いたいの？

道成寺さん、あのことは？

あのことって？

白浜様と岩代様が初めて屋敷にいらっしやった日です。旦那様のお姿が見えなくて、お探ししていたら、地下室にいらっしやったんですよね？

岩代
優花

若菜
優花

仁一
若菜

岩代
仁一

優花
仁一

優花
仁一

道成寺
岩代

道成寺

その話は僕も聞きました。地下室の階段から落ちて、頭を打ったって。
(箕島に) それも、誰かが突き落とされたって言うの? そんなことはありえ
ません。

どうして断言できるんですか?
だって、もしそうだとしたら、犯人は浦神家の人間だってことになってしま
います。

僕は父を殺してない。

本当ですか?

本当に決まってるだろう。仁一さんがそんなことをするはずがない。

嘘だ。あなたは僕を疑ってる。

バカなことを言わないで。それはあなたの思い過ごしよ。

確かに、僕が疑われても仕方がないと思う。僕は父を憎んでいた。子供の頃
から無能扱いされて、この年になっても秘書しかやらせてもらえない。「お
まえに社長は無理だ」「跡を継がせる気はない」と何度も言われた。

あなた、もうやめて。

優しい言葉をかけてもらったことなんか、一度もなかった。僕にはこの人が
自分の父親だとはどうしても思えなかった。

旦那様はご自分がされたことを仁一様になさっただけです。

それはどういうことですか?

以前、旦那様からお聞きしたことがあります。旦那様のお父様は旦那様以上
に厳しい方だったそうです。殴る蹴るなど当たり前でした。「子供の頃は憎
いと思っていたよ」そう、旦那様は仰っていました。「でも、今は感謝して
いる。父のおかげで、私の心は鋼のように鍛えられた」と。

仁一 道成寺
だから、僕にも厳しくしたって言うのか？
ええ、ご自分の跡を継がせるために。
仁一さん、教えてください。あなたは本当に何もしてないんですか？
仁一 僕は。

スマートフォン呼び出し音。

仁一 失礼。(スマートフォンを取り出して) はい、浦神仁一です。……何ですつて？(優花に) 親父を轆き逃げした犯人が自首してきたそうだ。

岩代 本当ですか？
仁一 (スマートフォンに向かって) ……その人の名前には覚えがありません。…

…うちの会社の元社員ですか。…二十四前にリストラされた？ ……父が映画に出ることと知って、許せないと思った？ ……わかりました。じゃ、詳しい話はその時に。

優花 あなた。

若菜 仁一さん、あなたを疑ったりして、みすみませんでした。

(ベッドに歩み寄り) お父さん、あなたはたくさんの敵と戦っていた。僕はこの身を挺して、あなたを守るべきだった。それなのに。お父さん、申し訳ありませんでした。(頭を下げる)

② 若菜・浦神・仁一・優花・道成寺・箕島・岩代が去る。
八月二十七日朝、オフィス。新宮・由良がやってくる。

新宮
由良

お忙しい所へお邪魔して、申し訳ありません。今日は朝からてんでこ舞いなんですよ。何しろ、撮影はもう始まってましたからね。浦神さんの出番もいくつか撮り終わってるんです。

新宮

そのシーンはどうするんです？ やっぱり、撮り直しですか？

由良

それしかないでしようね。これでまた出費が増える。頭が痛いです。

新宮

浦神さんがやっていた役は？

由良

急いで代わりを探します。できれば、今日中に。

新宮

それ、僕にやらせてもらえませんか？

由良

今、なんて言いました？

新宮

浦神さんがやっていた小野田の役を、僕にやらせてほしいんです。

由良

ちよつと待ってください。あなたは役者じゃなくて、刑事さんですよ？

新宮

警視庁東新宿署刑事課の有田恒彦です。

由良

今日は浦神さんの話を聞きにいらつしやつたんですよ？

新宮

違います。僕は串本くんに会いに来たんです。彼に頼んで、小野田の役をやらせてもらおうと思つて。

そこへ、和歌山がやってくる。

和歌山

由良さん、小野田役のオーディションは十一時からでいいですか？

由良

私はオーケイ。それより、串本くんは？

和歌山

トイレです。朝からおなかの調子が悪いみたいで。

由良

浦神さんが亡くなったのがショックだったんでしよう。新宮くんが亡くなつた時も、一週間、下痢気味だったもんね。

そこへ、串本がやってくる。

串本 遅くなつてすみません。

由良 顔色がよくないよ。医務室で少し横になつてきたら？

串本 そんな暇はありませんよ。それより、そちらが警察の方ですか？

由良 あら、この人はあなたのこと、串本くんて。

新宮 (串本に) 警視庁東新宿署刑事課の有田恒彦です。前に何度かお会いしまし

たよね？

串本 ひよつとして、大学時代に新宿二丁目で酔つ払つて大暴れした時、お世話に

なつた刑事さんですか？

新宮 友達と二人で裸になつて、路上を走り回つた事件ですね？

和歌山 監督つて、昔から酒癖が悪かつたんですね。

串本 バカ。警察に捕まつたのは、あの一回だけだ。(新宮に) で、今日は何をし

に？ 浦神さんの事件の捜査ですか？

由良 そうじゃなくて、浦神さんのかわりに小野田をやらせてほしいんだつて。

串本 (新宮に) 刑事さんが？

新宮 十一時からオーデイションをやるんですよね？ それに僕も参加させてくだ

さい。

和歌山 でも、公務員が副業を持つのは禁じられてるんじゃ。

新宮 警察は退職します。

由良 そんな。いきなり転職しても、役者として食べていけるかどうかはわかりま

せんよ。

新宮 和歌山
新宮 和歌山
由良 新宮
由良 新宮
串本 和歌山
串本 和歌山
新宮 和歌山
由良 串本
由良 串本

実は昨夜、容疑者と格闘中に、マンシヨンの五階から転落しましてね。五階から？ それで怪我はしなかったんですか？

幸い無傷で済みました。でも、自分の刑事としての能力に限界を感じたんです。それで、これからは役者として生きていこうと思つて。

でも、役者だつて、そんなに簡単な仕事じゃないですよ。

それはよくわかつてます。今日から毎日、ジョギングとストレッチをします。まあ、刑事さんなら体力は心配ないでしょうけど、セリフをしやべつたことはないでしょう？

発声練習もします。(棒を取り出して)この滑舌棒を使つて。とにかく、僕

は何が何でも、小野田がやりたいんです。

有田さんでしたよね？ 一つだけ質問させてください。もしオーディションに合格したら、まず最初に何をしますか？

あなたのホッペにチューします。

うわー、それつて、新宮さんが合格した時にやったことだ。

(うつむいている)

監督、どうしましたか？

(新宮に)わかりました。オーディションへの参加を許可します。

ありがとうございます。

串本くん、勝手なことを言わないで。

いいじゃないですか、オーディションぐらい。でも、この人の演技を見たら、きつと小野田をやらせたくなりませよ。

どうしてそんなことがわかるのよ。

それは、この人が僕の友達だからですよ。

新宮・串本・由良・和歌山が去る。

①八月二十七日昼、スタジオ。新宮・アルタイルがやってくる。

アルタイル
新宮

それじゃ、オーディションは無事に合格したんですね？
おかげさまで。二回目なのに、結構緊張しちゃいました。でも、セリフを言
つてるうちに、南部さんの演技が浮かんできて。だから、本気で言うことが
できました。

アルタイル
新宮

「浦神さんの演技にそっくりだ」って言われませんでしたか？
由良さんも歌山くんもビックリした顔をしていました。ひよっとすると、
そう思ったのかもしれない。

アルタイル

新さん、一つだけ教えてください。あなたはなぜそこまでして、串本さんの
映画に出ようとされるんです。やっぱ、友達だからですか？

新宮

今から十二年前、僕らが大学三年の時の話です。串本が書いた芝居が、本番
直前に中止になった。主役をやるはずだった先輩が、出演を拒否したんです。
理由は？

アルタイル
新宮

自分の役が気に入らなかつたんです。僕も串本も必死で説得しました。でも、
聞き入れてもらえなかつた。あの時、僕は串本に言ったんです。いつか必ず
この芝居を上演しようって。

アルタイル

ということは、今、撮ってる映画は。

新宮

十二年前の芝居を映画にしたものなんです。あの時、僕は小野田をやるはずだった。小野田は、串本が僕のために書いてくれた役なんです。

アルマイル

だから、何が何でも、自分でやりたかったというわけですか。

新宮

今度という今度は絶対に最後までやり通してみせます。

アルマイル

どうやら、その体が気に入ったようですね。

新宮

ええ。年は僕と同じ三十三。背格好も近いし、体力も刑事だけあって、ムチヤクチャ鍛えてるし、文句は一つもありません。

アルマイル

よかった。それでは、あなたの体はこれで決まりということにしましょう。

新宮

アルさん、今日まで本当にお世話になりました。

アルマイル

私も長いこと天使をやってきましたが、あなたほど勝手な人は見たことがない。でも、とても楽しかった。お別れする前に、最後の仕事です。あなたの記憶を消します。

新宮

記憶を消す？ どうしてですか？

アルマイル

あなたは今日から有田恒彦として生きていく。新宮弘樹の記憶は不要になります。でも、僕は今日まで新宮弘樹として生きてきた。記憶を消されたら、死ぬのと同じだ。

新宮

いいえ、記憶が消えても、魂は残ります。

アルマイル

でも、僕はまだ白浜さんに会ってない。今、記憶を消されたら、二度と会えなくなる。

新宮

人生は長い。いつか必ず会えますよ。

アルマイル

いつかじゃ困る。僕は今すぐ会いに行きたいんだ。

アルマイル

(新宮の額に手を伸ばして) さようなら、新さん。

新宮がひざまずく。そこへ、串本がやってくる。

串本 どうした、新宮？ 気分でも悪いのか？
新宮 一瞬、頭が真っ白になっちゃって。たぶん、生まれて初めて演技して、神経

串本 が参ったんだと思います。
新宮 何が生まれて初めてだ。大学時代から芝居一筋だったくせに。

串本 いいえ、さっきのが本当に初めてですよ。

串本 おいおい、ここには俺たち二人しかいないんだ。有田のフリはやめろ。
新宮 僕はフリなんかしてませんよ。

串本 いい加減にしろよ、新宮。
新宮 監督さん、しっかりしてください。僕は新宮なんて名前じゃありません。有田です。

串本 そうだ。おまえは有田だ。でも、本当は新宮なんだろう？

串本 いいえ、有田です。
新宮 でも、さっき、オーディションに合格したら、チューするって。

串本 そんなこと言いましたっけ？

串本 言ったよ。だから、今度はこいつの体の中に入ったのかと思って。
新宮 体の中に入るって、どういうことですか？

串本 すまない。ちよっと頭が混乱して。新宮っていうのは、最初に小野田をやるはずだった役者で。

串本 一月前に、事故で亡くなった人ですね？
新宮 俺の大学時代からの親友で、役者としても人間としても本当に凄いヤツで。

新宮 串本さんはその人のことが忘れられないんですね？
串本 ああ。俺は新宮が大好きだったんだ。

そこへ、由良・和歌山がやってくる。

由良 串本くん、食事に行かない？
和歌山 有田さんも一緒にどうですか？ 珍しく、由良さんが奢ってくれるそうですよ。

由良 (新宮に) オーディションの合格を祝って、ビールで乾杯する？
新宮 いや、僕は演技の練習をします。よかったら、空いてるスタジオを貸しても

和歌山 隣がいんじゃないかな。鍵は僕が借りてきますよ。

由良 (串本に) どうしたの？ またおなかの調子が悪くなったの？

串本 いいえ、大丈夫です。ビール、浴びるほど飲ませていただきます。

新宮 串本さん、由良さん、和歌山さん、明日からよろしくお願いします。

串本 こちらこそ。

新宮・串本・由良・和歌山が去る。

アルタイル 全く手のかかる人でしたね。次に会うのは五十年後か。その日が来るのを楽しみにしてますよ。だから、あなたももしかしたら滑舌の練習をしてください。そして、どうかお幸せに。

② アルタイトルが去る。
九月一日夕、スタジオの前。若菜・岩代がやってくる。

岩代 どういうことだ。今日は最後の挨拶に来たんじゃないのか？

若菜 全然違う。「これからも取材を続けますので、よろしく願います」って

岩代 言いに来たの。

若菜 つまり、おまえは続きを書くつもりなのか？ 俺は反対だ。

岩代 どうしてよ。

若菜 結局、浦神さんは六日しか撮影に参加しなかった。その間に撮影したシーンは、全部代わりの役者で撮り直すことになった。そんな人の本を書いて、一体誰が読む？

若菜 それは私の書き方次第よ。私は浦神さんから大切なものを受け取った。それが文章にできれば、きつとたくさんの人が読んでくれる。

岩代 おまえがそう思うのは、浦神さんの死が受け入れられないからだ。

若菜 違う。

岩代 そうじゃなければ、浦神さんに対して、過剰な思い入れをしているからだ。

若菜 おまえは浦神さんが好きだったんだ。

岩代 そうよ。私は浦神さんが好きだった。だから、浦神さんの本を最後まで書き

若菜 たいの。それでいい？

岩代 あー、もう、わかったよ。俺が何を言おうと、おまえの気持ちは変わらない

若菜 んだな？

岩代 そういうこと。

若菜 だったら、俺ももう口出ししない。おまえの気が済むようにすればいい。

岩代

若菜

若菜 ありがとう、旭くん。
岩代 礼なんか言われる覚えはない。
若菜 でも、あなたがいなくなったら、私はきっと途中で挫折してた。原稿が書き上がったら、読んでくれる？

岩代 当たり前だ。誰よりも先に読ませろ。ガンガンダメ出ししてやる。

若菜 お願ひします。じゃ、私はスタジオへ行くね。

岩代 若菜。

若菜 何？

岩代 困ったことがあったら、いつでも電話しろよ。相談に乗るから。

若菜 うん。

岩代 俺はおまえの幸せを願ってる。誰よりも。それだけは忘れないでくれ。

若菜 ありがとう。

岩代 じゃあな。

岩代が去る。そこへ、有田がやってくる。

有田 お疲れ様です。

若菜 あの、すみません。今、中に入っても大丈夫でしょうか？

有田 (若菜を見つめる)

若菜 本番中ですか？ だったら、キリのいいところまで待ちますけど。

有田 (若菜を見つめる)

若菜 あの、どうかしましたか？

有田 いや、えーと、何の話でしたっけ？

若菜 有田

スタジオに入っても大丈夫かどうか聞いたんです。ああ、大丈夫ですよ。ワンシーン撮り終わって、次の準備をしているところだから。

若菜 有田

ありがとうございます。（行こうとする）

若菜 有田

あの、お会いするのは初めてですよね？

若菜 有田

だと思えますけど。

若菜 有田

出演者の方ですか？

若菜 有田

いいえ、私はフリーライターです。個人的に、この映画に出るはずだった人の取材をしてて。

有田 若菜

出るはずだった人？ それって、浦神さんですか？

有田 若菜

そうです。浦神信雄さんです。

有田 若菜

僕は有田恒彦と言います。浦神さんの代わりに、小野田をやることになりました。

若菜 有田

そうですか。あなたが。

若菜 有田

串本監督から、とてもいい役者さんだったと聞きました。それに比べて、僕はただの素人です。演技の経験はありません。でも、浦神さんを目標にして、全力を尽くすつもりです。

若菜 有田

ぜひそうしてください。お願いします。

若菜 有田

あの、僕に会うのは本当に初めてですか？

若菜 有田

さつきもそう言ったはずですけど。

有田 若菜

でも、あなたの顔には見覚えがある。どこかで会ったような気がするんです。

有田 若菜

それはあなたの勘違いですよ。

有田 若菜

そうです。まだ、名前を聞いてなかった。教えてもらえませんか？

有田 若菜

それはあなたの勘違いですよ。

有田 若菜

そうです。まだ、名前を聞いてなかった。教えてもらえませんか？

有田 若菜

それはあなたの勘違いですよ。

有田 もちろん聞くよ。隣のスタジオへ行こう。そこで、コーヒーでも飲みながら。
若菜と有田が歩き出す。

∧ 幕
∨